

TCM

Tokyo College of Music

東京音楽大学





音楽のチカラを信じよう。

音楽のチカラで、自分を高めよう。
 音楽のチカラで、仲間を増やそう。
 音楽のチカラで、社会に貢献しよう。
 音楽のチカラで、世の中を動かそう。
 音楽のチカラで、国境を越えよう。
 音楽のチカラで、未来をつくろう。

音楽学部音楽学科

| | | | | | | | | | | |
|------|------------------|----|------------|------------------|-----------------|-----------|-----------------------------------|----------------------|------------|-----|
| 声楽専攻 | ・声楽芸術コース | 4 | 作曲指揮専攻 | 作曲 | ・芸術音楽コース | 12 | 学長メッセージ/建学の精神と理念 /ビジョン/沿革/教育方針 | 2 | 卒業生メッセージ | 38 |
| | ・声楽特別演奏家コース | | | 指揮 | ・ミュージック・メディアコース | 14 | | | | 芸術祭 |
| 器楽専攻 | 鍵盤楽器 | 6 | 音楽文化教育専攻 | | | 18 | 教職課程 | 24 | 社会・地域との連携 | 41 |
| | ・ピアノ演奏家コース | | | ミュージック・リベラルアーツ専攻 | | 20 | 教育の特色 | 26 | 奨学金/学費/その他 | 42 |
| | ・ピアノ | | 吹奏楽アカデミー専攻 | | | 22 | グローバル教育 | 30 | キャンパス | 46 |
| | ・コンポーザー=ピアニストコース | | | | | | コンクール | 32 | 施設・設備 | 48 |
| | ・ピアノ・創作コース | | | | | 在学生メッセージ | 34 | | | |
| | ・チェンバロ | | | | | キャリア支援/進路 | 36 | 大学院音楽研究科 修士課程/博士後期課程 | 44 | |
| | ・オルガン | | | | | | | | | |
| | 弦楽器 | 8 | | | | | | | | |
| | 管打楽器 | 10 | | | | | | | | |



熱き情熱で、 感性や知性を磨き育てる。

東京音楽大学は「熱いエネルギー」を擁する大学です。
音楽と真摯に向き合う学生たちのエネルギー、それに対しさらなる情熱を以て指導にあたる教員、そしてそれらを全面的に力強くバックアップする職員たち。
我われが目指す方向は一致しています。
だからこそ本学にはパワーがみなぎっているのです。
また、本学には極めて豊富な「出会い」の機会があります。
日々研鑽を重ねている現役音楽家でもある教授陣による音楽観、留学生など多種多彩な学生とともに学ぶ「異文化体験」、切磋琢磨し合う仲間や専攻の垣根を越えたアンサンブルから生まれる新たな出会いが、皆さんにとっての音楽探求を通じた人間形成の場となり、将来の目標を自ら見つけるきっかけとなることを、私は切に願っています。

学長 野島 稔 Minoru Nojima

建学の精神と理念

東京音楽大学は、鈴木米次郎により1907年に設立された東洋音楽学校を前身とする、日本で最も古い歴史をもつ私立音楽大学です。

本学は「音楽をととして社会に貢献する」という理念に基づき、西洋音楽に関する学問の探求と高度な音楽技量の修得を通じて教養豊かな音楽家および音楽教育者を育成してまいりました。この建学の精神は「アカデミズムと実学の両立」「音楽による社会貢献」「国際性」という教育の基本理念として、現在の学則と教育にも反映され、その結果、本学は国内外の著名なコンクールやオーディションなどの入賞者、入選者を例年多数輩出し、音楽界、教育界だけでなく、国内外の経済界にも優秀な人材を送り出しています。

東京音楽大学ビジョン

— 音楽文化の新たな地平を拓く —

1. 全学を挙げた先進的な活動により、音楽文化の新たな地平を拓きます。
2. 変化し続ける社会を見据えて、音楽で感動を与え、音楽で明日をつくる人材を育成します。
3. 音楽文化の多角的な研究を展開し、広く成果を発信します。
4. 双方向の国際交流を活発化し、多文化が共存するキャンパスを目指します。
5. 鋭意音楽活動を展開し、地域社会の活性化、文化力の向上に積極的に貢献します。
6. クリエイティブ・キャンパスを創出・運営し、構成員が自ら成長し続ける大学を実現します。

2019年1月11日策定（全文はホームページに掲載）

沿革

| | | | |
|--------------|---------------------|--------------|---------------------|
| 1907年(明治40年) | 千代田区猿樂町(現)で東洋音楽学校創立 | 1969年(昭和44年) | 東京音楽大学に名称変更 |
| 1908年(明治41年) | 管弦楽部設置 | 1993年(平成5年) | 大学院音楽研究科修士課程設置 |
| 1924年(大正13年) | 豊島区南池袋(現)に校舎移転 | 2007年(平成19年) | 創立100周年記念本館校舎(A館)竣工 |
| 1954年(昭和29年) | 東洋音楽短期大学設置 | 2014年(平成26年) | 大学院音楽研究科後期博士課程設置 |
| 1963年(昭和38年) | 東洋音楽大学(4年制)に移行 | 2019年(平成31年) | 中目黒・代官山キャンパス開校 |

教育方針

■ ディプロマ・ポリシー

アカデミズムと実学の精神を両立させることによって、個の確立、協調性、社会性、国際性を獲得し、広く社会に貢献することのできる人材を世に送り出します。

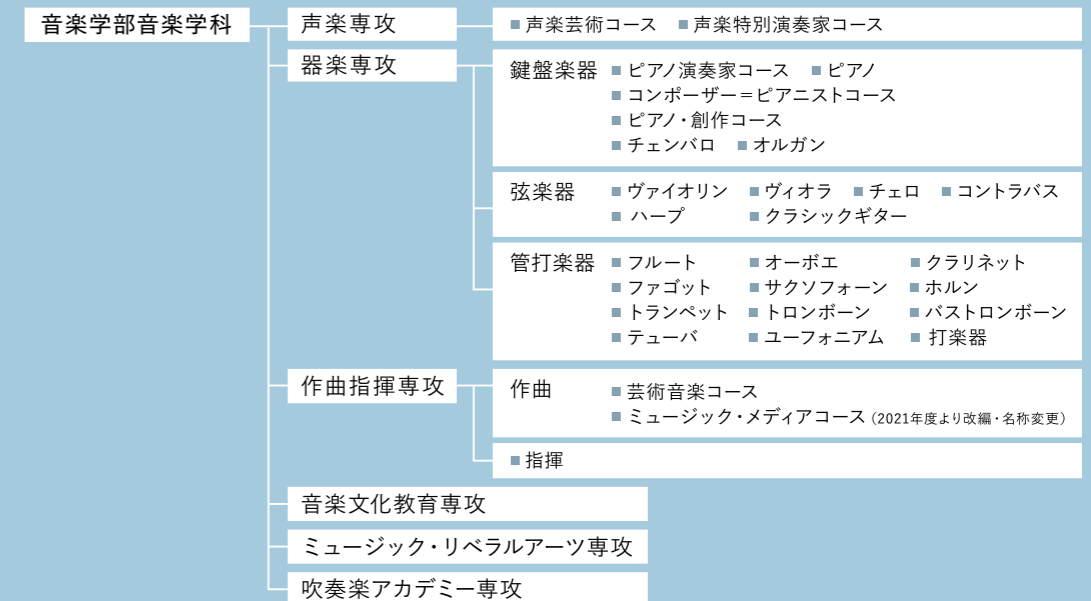
■ カリキュラム・ポリシー

個人レッスンを核とする専攻科目を中心に、専門基礎科目・専門共通科目で音楽的能力の基礎を固めるとともにその幅を広げ、さらに基礎教育科目で国際人としての広い教養を身につけることにより、音楽を土台として現代社会のさまざまな局面に対応しうる人材を育成することを目標とします。

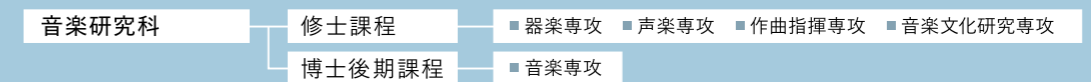
■ アドミッション・ポリシー

音楽を愛し、広く芸術や文化に対して興味と関心を持ち、さまざまな音楽分野での活躍を目指して努力する人材を求めます。楽譜を読む力、音を聴く力、表現の基礎となるテクニック、様式をとらえる力、楽典の知識が一定のレベルに達していることが重要です。外国語、専攻によってはピアノ演奏や新曲視唱、新曲視奏の基礎的な能力も必要です。

大学



大学院



付属教育研究組織

付属図書館 付属民族音楽研究所 付属音楽教室

付属学校

付属幼稚園 付属高等学校

世界を魅了する声楽家を目指して



声楽専攻 Vocal Music

世界でたったひとつの自分の声を「楽器」として育て上げるために、基礎的な発声法などを学びます。本学の伝統である多角的かつ複数の教員から受けられる手厚い指導と充実したカリキュラムで、学生一人ひとりが見出し、磨き上げ、目指す道へ進む力を育みます。

【1年次：全員】

声楽芸術

- 基礎的な発声法を学びながら「舞台基礎入門講座」でオペラはもちろん、すべての舞台表現の基礎を学びます。

【2～4年次】

声楽芸術コース

- あらゆる歌のシーンで活躍できるよう、歌曲からオペラ、ミュージカルまで、本人の希望に合わせたさまざまなジャンルの曲のレッスンが可能です。
- 「オペラ実習」では、声楽家、演出家、指揮者による手厚い指導が行われます。

声楽特別演奏家コース

- 「特別実習」では、声楽家、演出家、指揮者らの指導のもと、高度で実践的な授業が展開されます。
- 2年次からの本コースへの在籍生は、定期実技試験の成績などにより決まります。

主なカリキュラム

| 必修科目 | 専攻科目 | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 |
|--------|-------------|------------|------------|------------|--------------------|
| | | 声楽実技 合唱 | 声楽実技 合唱 | 声楽実技 合唱 | 声楽実技 合唱 卒業演奏 |
| 専門基礎科目 | ピアノ(副科) | ピアノ(副科) | ピアノ(副科) | | |
| | ソルフェージュ | ソルフェージュ | ソルフェージュ | | |
| | 和声 | 和声 | 和声 | | |
| | 西洋音楽史概論 | | | | |
| 英語 | 英語コミュニケーション | 外国語 *1 | | | |

【選択科目】 専攻科目：舞台基礎入門講座、特別実習、オペラ実習、歌曲・重唱、ヴォイストレーニング、ドイツ語歌詞研究、ドイツ語オペラ台本研究、イタリア語歌詞研究、イタリア語オペラ台本研究

*1: イタリア語・ドイツ語・フランス語から1科目以上(1年次から4年次の間に履修)



カリキュラムの詳細はホームページをご覧ください。

Message

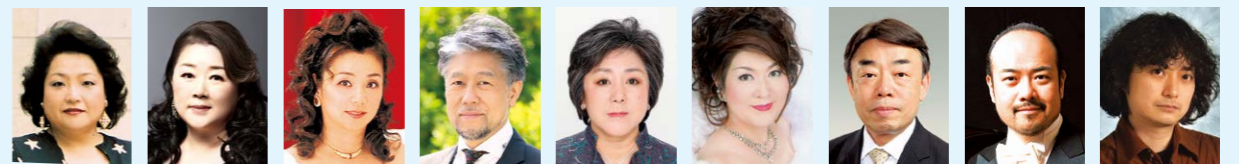
教授 釜洞 祐子 Yuko Kamahora



さらなる充実を目指して、一人ひとりに合わせた多角的な授業を。

本学のオペラ授業の大きな特色は、プロフェッショナルのオペラの現場に極めて近い形をとりながら、初歩から丁寧な指導を行っていることにあります。ひとりの学生に対して、歌、指揮、演出、発音など専門の教員がチームとなって指導にあたっており、学生はオペラを実践的かつ多角的に学ぶことができます。声や成長の速度は一人ひとり違うので、その学生に合った配役や場面を考えるなど、丁寧な指導を心がけています。授業の集大成として、春学期と秋学期に試演会が開催されます。プロフェッショナルの世界でも言えることですが、ひとつの舞台を踏むことによって人は大きく成長します。「オペラをやってみよう」という夢をもったら、全力でチャレンジしてもらいたい。東京音楽大学は、皆さんの夢を受け止め、手厚くサポートしようという教員がそろっており、皆さんを待っています。

担当教員



加納 里美 釜洞 祐子 菅 有実子 小森 輝彦 水野 貴子 横山 恵子 川上 洋司 佐野 成宏 栗園 淳(演出)

【教授】 加納 里美 釜洞 祐子 菅 有実子 小森 輝彦 水野 貴子
横山 恵子
【客員教授】 川上 洋司 佐野 成宏
【特別招聘教授】 ステファノ マストラランジェロ
【准教授】 秋山 隆典 阿部 純 立原 ちえ子 伊達 英二 星 洋二
緑川 まり
【専任講師】 安達 さおり 五日市 田嶋子 菅野 宏昭 志村 文彦 萩原 みか
【講師】 浅井 隆仁 川原 敦子 木下 美穂子 倉石 真 黒澤 麻美
清水 華澄 杉野 正隆 高橋 淳 武田 正雄 田代 誠
中村 恵理 成瀬 当正 野田 ヒロ子 服部 洋一 藤井 奈生子
藤牧 正充 (ほか助手)

オペラ
演出 【客員教授】 栗園 淳
【専任講師】 伊藤 隆浩
【講師】 今井 伸昭 大島 尚志 久恒 秀典
身体表現 【特任講師】 菊若 亮太郎
【講師】 安達 悦子 高野 知美
ディクシオン 【講師】 エルマンノ アリエンティ

声楽伴奏(コレペティートルを含む)
【専任講師】 腰塚 賢二 平 郁夫 田島 亘祥 谷池 重穂子 服部 容子
【講師】 白取 晃司 濱野 基行 前田 美恵子 八木 智子 湯浅 加奈子
(ほか助手)

鍵盤からすべてを「表現」し、「発信」する。
それを可能にするのは共感する力、理解する力。



器楽専攻 ピアノ Piano

すべてのコースにおいて基礎能力の向上と、自身の特性と得意領域を発見できるプログラムになっています。共通するポリシーは「作品の意思を聴く人に伝えるため、演奏を学生各自の極限まで磨くこと」「人間の湧き上がる感情と意思が作品にどう投影されているかを冷静に判断する知見をもつこと」です。この演奏芸術の要となる2つを軸に、フィジカルな演奏鍛錬のみならず、作品の分析力や創作力の向上と、「学生各自がもつ作者への親和性」を最大限に引き出しながら学修します。ピアノのレッスンは、希望により複数の教員から学ぶことが可能です。2年次からの「室内楽」「ピアノ実践伴奏」では、他専攻とのコラボレーションの機会が飛躍的に増えます。

また、国内外の演奏家、指導者による「作品解釈」「指導法」、さらには、海外招聘教授によるレッスンや海外短期留学の機会など、さまざまな学修プログラムが整えられています。

ピアノ

- 基礎からステージでの演奏、また、コンクールでの演奏、さらには実際の演奏活動までを個人レッスンを中心に体得します。個人レッスンでは将来指導者を目指すための知識も豊富に得ることができます。
- 全学年対象のオーディションによる学内演奏会、3年次の定期実技試験の成績優秀者による春のコンサートがあります。

コンポーザー=ピアニストコース

- ピアノと作曲ともに、専門的な実技レッスンが受けられます。
- 専攻必修科目の「作曲技法」は、和声法、対位法、楽器法、管弦楽法などを学び、オーケストレーションができるようまでを目指します。

ピアノ・創作コース

- ピアノの個人レッスンに加え、楽曲創作の学修により読譜力を向上させ、自作発表までを経験できます。
- 専攻必修科目の「創作実技」(作曲)、「作曲理論基礎」(和声・対位法・管弦楽法など)は、作曲「芸術音楽コース」の教授陣による個人レッスンを主体とし、習熟度に合わせた指導が受けられます。

ピアノ演奏家コース

- 読譜力の速さと緻密さを養い、長時間の演奏プログラム、作品の様式感を徹底的に学修します。
- 定期実技試験の成績優秀者は、学外で開催される「東京音楽大学ピアノ演奏会」に出演します。

チェンバロ オルガン

- 楽器の奏法を学びながら、正統的な演奏法を身につけ、ソロのみならず合奏でも活躍できる演奏家を育成する科目とレッスンが用意されています。



エリソン ヴィルサーラーゼ 客員教授



ローナン オホラ 客員教授



小川 典子 特任教授

主なカリキュラム

| | | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 |
|------|---------|-----------------------------|------------------|---------------|-----------|
| 必修科目 | 専攻科目 | ピアノ実技 | ピアノ実技 | ピアノ実技 | ピアノ実技 |
| | | ピアノ初見法 *1 | | 伴奏法 | 卒業演奏 |
| | | 創作実技 *2 | 創作実技 *2 | 創作実技 *2 | 創作実技 *2 |
| | | 作曲理論基礎 *2 | 作曲理論基礎 *2 | 作曲理論基礎 *2 | 作曲理論基礎 *2 |
| | | 作曲実技 *3 | 作曲実技 *3 | 作曲実技 *3 | 作曲実技 *3 |
| | 作曲技法 *3 | 作曲技法 *3 | 作曲実技 *3 | 卒業作品 *3 | |
| | | | オーケストレーション *3 | | |
| | 専門基礎科目 | ソルフェージュ 和声 *1 西洋音楽史概論 | ソルフェージュ 和声 *1 | キーボードハーモニー *1 | |
| | 英語 | 英語コミュニケーション | 英語コミュニケーション | | |

【主な選択科目】 専攻科目：ピアノデュオ講座、ピアノ室内楽、ピアノ指導法、ピアノ指導法特講、ピアノ・プラクティカル・トレーニング*4、作品解釈、ピアノ実践伴奏、伴奏演習、リサイタル試験、音楽形式*5、身体表現と音楽、音楽演奏科学

*1 ピアノコース、ピアノ演奏家コース *2 ピアノ・創作コースのみ *3 コンポーザー=ピアニストコースのみ
*4 ピアノコースのみ *5 ピアノコースはなし



カリキュラムの詳細は
ホームページをご覧ください。

Message

教授 石井 克典 Katsunori Ishii

常にワクワクし、新たな発想を実現する。

ピアノは初心者でもすぐにたくさんの音が出せる親しみやすい楽器です。音の組み合わせや弾き方によって、ほぼ無限の表現の可能性をもつがゆえに、奏者の個性を発揮できる非常に奥深い楽器でもあります。ピアノで自分の音楽を表現するためには、奏法だけではなく、背景にある思想や社会を学び、作曲家の内面を探ることも必要不可欠です。そうすることで、モチベーションがより明確になるだけでなく、新たな解釈、理解と発想、ジャンルを越えた活動エネルギーの源にもなると信じています。時代を越えて変わらない大切なものは何なのかを考察しながら、音楽をする上で、社会での活動においても、常にワクワクし、新たな発想を果敢に試して実現してほしいと思います。

担当教員



| ピアノ | チェンバロ | オルガン |
|---|------------------|-------------|
| 【教授】 石井 克典 大竹 紀子 岡田 敦子 ガーボル・ファルカシュ 佐藤 俊 野島 稔 | 【講師】 大塚 直哉 渡邊 順生 | 【講師】 徳岡 めぐみ |
| 【客員教授】 東 誠三 エリソン・ヴィルサーラーゼ 菊地 麗子 迫 昭嘉 鷲見 加寿子 武田 真理 播木 枝未子 村上 隆 ローナン・オホラ 若林 顕 | | |
| 【特任教授】 小川 典子 | | |
| 【准教授】 石附 秀美 御邊 典一 川上 昌裕 川島 基 倉沢 仁子 小高 明子 広瀬 宣行 山洞 智 ^{*2} | | |
| 【専任講師】 石井 理恵 福田 潤子 長川 晶子 菊地 裕介 西川 秀人 山口 優 米田 栄子 腰塚 賢二 ^{*1} | | |
| 【特任講師】 河村 尚子 小菅 優 | | |
| 【講師】 石岡 千弘 梅根 恵 海瀬 京子 河邊 亮子 神代 麻子 江夏 真理奈 後上 聡司 越村 紅 後藤 美由紀 小林 由佳 佐藤 智子 | | |
| 佐藤 展子 佐藤 彦大 佐藤 由紀子 島田 美穂 杉山 とみえ 相馬 泉美 智内 威雄 仲田 みずほ 渚 智佳 新見 フェイギン 浩子 | | |
| 野中正 浜野 与志男 半澤 佑果 樋口 愛 松尾 奈々 松本 愛 宮崎 和子 森 早苗 森山 あす香 山口 泉恵 山辺 絵理 | | |
| 吉田 友昭 伊賀 あゆみ ^{*2} 加藤 千晶 ^{*2} 清野 香子 ^{*2} 篠田 昌伸 ^{*1} 竹中 勇人 ^{*3} 只野 なつき ^{*2} 長井 芽乃 ^{*1} 野宮 淳子 ^{*2} 藤井 麻理 ^{*2} 古屋 晋一 ^{*1} | | |
| 松下 倫士 ^{*2} 吉本 悟子 ^{*2} (ほか助手) ※1: 授業担当 ※2: 伴奏担当 ※3: アンサンブル担当 | | |

美しく豊かな響きを追い求めて。
個性の輝き、そして協調へ。



器楽専攻 弦楽器 Strings

弦楽器独特の美しく豊かな響きを追求するとともに、それぞれの感性と知識によって楽曲の様式や作曲者の意図をとらえ、どのように表現するかを探索します。また、合奏などの授業において「聴(みみ)」を育て、他と協調し、連帯感を培います。



- 週1回の個人レッスン。
- 1・2年次必修の「管弦楽または合奏」と「弦室内楽」では、アンサンブルの基礎を学びます。
- 弦楽器の合奏をさらに学びたい学生のために「弦楽アンサンブル」が開講されています。
- 国内外招聘音楽家による公開レッスン、公開講座などを受ける機会があります。

Message

教授 神尾 真由子 Mayuko Kamio

懸命に音楽を勉強すれば、必ず力になる。

東京音楽大学の卒業生は、必ずしも誰もが音楽家としての社会人活動をされるわけではありません。大学院に進む方たちもいれば、留学をする方たち、または音楽の道を離れて企業人として活躍される方も多数いらっしゃいます。まるで一寸先は闇のような目まぐるしく変わるこの社会情勢だからこそ、懸命に音楽を勉強してください。個人レッスンでは、担当の先生が演奏技術の進捗具合だけでなく、あなたの人生そのものに関心を持って関わってくれます。室内楽の授業では少人数グループでの活動の楽しさと楽しさ、反対にオーケストラの授業では大人数グループで何かを成し遂げることを学びます。そして楽器の練習に休日はありません。よほどのことがない限り、必ず毎日何時間かは練習するのです。そのような皆さんの努力は、必ず評価されるのです。私たちは自信をもって言えます。青春時代に音楽を勉強したことは、必ず皆さんの力になると。



主なカリキュラム

| | | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 |
|------|--------|--------------------------------------|---------------------------|-------|---------------|
| 必修科目 | 専攻科目 | 弦楽器実技 弦室内楽 管弦楽または合奏 ピアノ(副科) | 弦楽器実技 弦室内楽 管弦楽または合奏 | 弦楽器実技 | 弦楽器実技 卒業演奏 |
| | 専門基礎科目 | ソルフェージュ 和声 西洋音楽史概論 | ソルフェージュ 和声 | | |
| | 英語 | 英語コミュニケーション | 英語コミュニケーション | | |

【選択科目】 専攻科目：吹奏楽(コントラバスのみ)、弦楽アンサンブル、リサイタル試験

カリキュラムの詳細は
ホームページをご覧ください。



担当教員



- ヴァイオリン**
- 【教授】 荒井 英治 大谷 康子
 - 神尾 真由子 木野 雅之
 - 竹澤 恭子 山口 裕之
 - 【客員教授】 海野 義雄 篠崎 功子
 - 瀬戸 瑠子 藤原 浜雄
 - 【特任教授】 小栗 まち絵 原田 幸一郎
 - 【准教授】 中村 静香
 - 【兼任准教授】 齋藤 真知亜 横山 俊朗
 - 【講師】 東 彩子 近藤 薫
 - 嶋田 慶子 鈴木 亜久里
 - 館市 正克 中川 直子
- ヴィオラ**
- 【客員教授】 店村 真積 百武 由紀
 - 【講師】 大野 かおる
- チェロ**
- 【教授】 冨田 雅治
 - ドミトリー フェイギン
 - 【客員教授】 鈴木 秀美 毛利 伯郎
 - 【専任講師】 山本 裕康
 - 【講師】 門脇 大樹 三森 未来子
- コントラバス**
- 【教授】 星 秀樹
 - 【客員教授】 吉田 秀
 - 【講師】 永島 義男 幕内 弘司
- ハーブ**
- 【客員教授】 篠崎 史子
 - 【講師】 柏原 靖子
- クラシックギター**
- 【客員教授】 荘村 清志
 - 【講師】 江間 常夫
- 管弦楽・合奏**
- 【講師】 杉浦 美知
- 弦(ピアノ伴奏)**
- 【講師】 百武 恵子 諸田 由里子
 - 山崎 早登美

自らの音を磨き上げ、相手の音に耳を澄ます。
すべては調和するよろこびのために。



器楽専攻 管打楽器 Wind and Percussion

世界的に活躍している著名な教授陣から受けるレッスンによって、高度な技術と豊かな表現力をもった音楽家の育成を目指します。独奏だけでなく合奏技術を高め、複数の楽器に関する幅広い知識を獲得します。多様な合奏形態を経験することにより、他者に対する思いやりや社会性を養います。シンフォニック ウインド アンサンブルおよびシンフォニーオーケストラでは、合奏授業の集大成として学外で定期演奏会を実施するほか、多数の演奏会を行い、経験を積みます。また、国内外の招聘音楽家による公開レッスンや公開講座などを受ける機会があります。

- 1年次は、「管弦楽または合奏」で同属合奏や木管五重奏、金管五重奏などで合奏の基礎を学びます。
- 2年次以上は、オーケストラを学び、全員がさまざまな演奏会で活躍できます。
- 「吹奏楽」では、1年次より合奏の基礎から応用まで段階を踏んで学び、全員で数多くの演奏会を経験します。また将来、吹奏楽の指導者として必要となる能力も総合的に修得します。

Message



教授 四戸 世紀 Seiki Shinohe

管打楽器の特性と役割を実践的に学ぶ4年間。

管打楽器はアンサンブルでの力がひととき重要視される楽器です。そのため、自らの「音」を創り出す演奏技能に加えて、他のパートとの調和を見出すコミュニケーションも強く要求されます。「管弦楽または合奏」では、1年次に同属楽器、木管五重奏などの合奏により、アンサンブルの基礎と自分の専門以外の楽器の特性を徹底的に知り、2年次には管打楽器・ハープによるオーケストラスタディーズ、3年次からは弦楽器なども入れたフルオーケストラでの管打楽器の役割を学びます。実践でしか学ぶことができないこれらの要素を、国内外のメジャーオーケストラで活躍してきた教授陣、そして現役音楽家でもある指導者たちが、経験上蓄積してきたノウハウをもとにパートごとに直接アドバイスをすることこそ、本学の特長と言えるでしょう。音楽が大好きで大志を抱く皆さんには、シンフォニック ウインド アンサンブル定期演奏会に参加し、その情熱みなぎる演奏を経験していただきたいと思っています。

主なカリキュラム

| | | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 |
|------|-------------|---------------------|----------|--------|--------|
| 必修科目 | 専攻科目 | 管打楽器実技 | 管打楽器実技 | 管打楽器実技 | 管打楽器実技 |
| | | 吹奏楽 | 吹奏楽 | 吹奏楽 | 卒業演奏 |
| | 専門基礎科目 | 管弦楽または合奏 ピアノ(副科) | 管弦楽または合奏 | | |
| | | ソルフェージュ | ソルフェージュ | | |
| 英語 | 英語コミュニケーション | 英語コミュニケーション | | | |

【選択科目】 専攻科目：吹奏楽、管弦楽または合奏、管打室内楽、リサイタル試験、管打指導法

カリキュラムの詳細はホームページをご覧ください。



担当教員



| | | | |
|--|---|---|---|
| フルート 【教 授】 工藤 重典 【准 教 授】 中野 真理 【講 師】 相澤 政宏 甲斐 雅之 神田 勇哉 三上 明子 | ファゴット 【兼 任 教 授】 水谷 上総 【講 師】 宇賀神 広宣 | トランペット 【教 授】 アンドレ アンリ 【客 員 教 授】 津堅 直弘 【講 師】 高橋 敦 榎本 浩規 辻本 憲一 長谷川 智之 | 打楽器 【教 授】 神谷 百子 【客 員 教 授】 菅原 淳 【兼 任 教 授】 久保 昌一 【講 師】 柴原 誠 西久保 友広 堀尾 尚男 村瀬 秀美 |
| オーボエ 【客 員 教 授】 宮本 文昭 【准 教 授】 古部 賢一 【講 師】 荒 絵 理 子 南 方 総 子 | サクソフォーン 【教 授】 小串 俊寿 【講 師】 波多江 史朗 平野 公崇 本堂 誠 | トロンボーン 【客 員 教 授】 呉 信一 【兼 任 教 授】 新田 幹男 【講 師】 井口 有里 岸良 開城 | 指揮 【講 師】 近藤 久敦 |
| クラリネット 【教 授】 四戸 世紀 【兼 任 教 授】 伊藤 圭 松本 健司 【講 師】 イシュトヴァーン コハーン 亀井 良信 重松 希巳江 | ホルン 【客 員 教 授】 水野 信行 【兼 任 教 授】 福川 伸陽 【講 師】 勝俣 泰 富成 裕一 日橋 辰朗 崎崎 裕 吉永 雅人 | バストロンボーン 【講 師】 野々下 興一 | 管弦楽または合奏 【講 師】 井上 亮 萩野 晋 副田 真之介 (ほか助手) |
| | | チューバ 【講 師】 次田 心平 | |
| | | ユーフォニアム 【教 授】 外園 祥一郎 | |



先人の技法を学び、自分だけの音を紡ぐ。
創作するよろこびがそこにある。

学長賞本選における学生作品のオーケストラ演奏

作曲指揮専攻 作曲「芸術音楽コース」 Composition / Artistic Music Course

作曲「芸術音楽コース」では、古典から現代に至る作曲技法を学びながら、さまざまな編成の楽曲を創作することで創作力および対応能力の養成を図ります。劇音楽やゲーム音楽など商業音楽分野の作編曲に興味のある学生は、芸術音楽をベースにしながらマルチメディアに対応したレッスンを受けることも可能です。また、自作品の演奏機会が数多く設けられているのも、本コースの魅力のひとつです。

- 1年ごとに指導を受ける教員を自由に選べます。
- 「作曲理論」は、1年次と2年次でオーケストレーション、3年次は、コンピュータを使用した音楽と吹奏楽作編曲を学び、4年次は、さらなる個性の伸長を目的に、総合的な作曲能力を高めます。

学長賞受賞作品選考演奏会 譜面審査で選ばれた作品が演奏会で審査され、最優秀作品には「東京音楽大学学長賞」（賞状と賞金）が授与されます。2003年より毎年、本学ホールで開催されています。



教授 西村 朗 Akira Nishimura

Message

「作曲への挑戦」その魅力とは。

「作曲」とは、作品を書き上げる以前に、まず「音やその響きと人間（＝自己）との関係」について自問自答し探求する芸術です。それは「自らの本質を追求する芸術」「自己啓発」とも言えるでしょう。そこには大きな発見と驚き、そしてよろこびがあるはず。本コースでは、そうした一連の流れが歴史的にどのような道を行ってきたのか、特に20世紀後半の音楽から体系的に学び、自らが進むべき道を学生自身に見つけ出してもらいます。進むべき道が見つかれば、あとはどうやって飛び立つかだけです。試行錯誤の連続かもしれませんが、21世紀に生きる皆さんには、新たな自分の道、可能性を発見してほしいと思います。

卒業生からのメッセージ



今でも綿々と
根底に流れる、
先生方からの教え。

荻田 翔一
2009年大学卒業 2011年大学院修了
(兵庫県立龍野高等学校卒業)

私の作曲へのアプローチとスタンスは、西村朗先生の背中から学んだものが礎になっています。ジュネーブ国際音楽コンクールでよい結果に結びついたのも、事前に榎場富美子先生から貴重なアドバイスをいただいていたおかげでした。私は今、さまざまなジャンルの音楽に興味があり、これからは歌曲や映像音楽も作っていきたいと考えています。そして、いつになっても東京音楽大学で学んだこと、先生方の言葉は私の中で生き続けることでしょ。

- 第70回 ジュネーブ国際音楽コンクール 作曲部門 優勝
- 第26回 出光音楽賞 ■ 文化庁長官表彰（国際芸術部門）2016年



理想的な環境と
カリキュラムで、
熱く学ぼう。

高野 裕也
2014年大学卒業 2020年大学院修了
(長野県長野高等学校卒業)

300年前のクラシックを吸収するだけでなく、今まさにヨーロッパで行われている現代音楽を追いかけるだけでなく、100年前、50年前にどんな芸術作品が生まれたかを学んだ上で今自分がどんな作品を出していくか考える。これが、最終的にどんなジャンルで作曲活動していくかにかかわらず必要だと思っていることです。学校の長い伝統から丁寧に組み立てられてきたカリキュラムが展開され、都心に2つのキャンパスをもつ開かれた環境でたくさんの学生が熱く学んでいます。

- 第88回 日本音楽コンクール 作曲部門 第2位

主なカリキュラム

| 必修科目 | 専攻科目 | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 |
|--------|------|-------------------------------|---------------------|--------------|----------------------|
| | | 作曲実技 作曲理論 対位法 | 作曲実技 作曲理論 対位法 | 作曲実技 作曲理論 | 作曲実技 作曲理論 卒業作品 |
| 専門基礎科目 | 英語 | ピアノ(副科) ソルフェージュ 西洋音楽史概論 | ピアノ(副科) ソルフェージュ | 指揮法 | |
| | | 英語コミュニケーション | 英語コミュニケーション | | |

カリキュラムの詳細は
ホームページをご覧ください。



担当教員



- 【教 授】 榎場 富美子 西村 朗 藤原 豊
- 【客員教授】 細川 俊夫
- 【准 教 授】 土屋 雄 中橋 愛生 原田 敬子
- 【講 師】 赤石 直哉 伊左治 直 磯部 英彰 植田 彰
- 近江 典彦 神山 奈々 川島 素晴 喜久 邦博
- 竹澤 透 照屋 正樹 久田 典子 久行 敏彦
- 森垣 桂一 山下 美香

時代に対応したさまざまな音楽ジャンル、メディアに。
音楽業界で即戦力となれる人材に。



作曲指揮専攻 作曲「ミュージック・メディアコース」

Composition / Music Media Course

2021年度より、音楽をめぐる状況の大きな変化に対応するため、作曲「映画・放送音楽コース」「ポピュラー・インストゥルメンツコース」「ソングライティングコース」の3コースを統合し、作曲「ミュージック・メディアコース」が誕生します。

卒業後、音楽業界で即戦力となるために、商業音楽分野で必要とされる作編曲法を基礎から学び、プリプロダクション、スタジオレコーディング、セルフプロデュースによるCD制作などを実践しながら、多様化したメディアに対応し、自分の音楽を積極的に世界へ発信できるアイデアと頭脳を併せもつ、時代に対応したセルフ・プロデュース能力のある人材の育成を目指します。

- 1年次は、週に複数回の課題提出により、「毎日作曲をする習慣」を養います。
- 2年次は、指定された構成、編曲、曲尺、用途、目的などの条件を満たす楽曲制作能力を養います。
- 2年次以降で、キーボード、ギター、ベース、ドラムスやソングライティングなどを深く追求するための選択科目を受講できます。
- 3年次は、ビッグバンド、ストリングスなど、ポップスにふさわしいオーケストレーション能力を修得し、代表的な編成での作編曲法を学びます。
- 4年次は、スタジオ録音、編集作業を実践的に学びます。
- 卒業制作としてセルフ・プロデュースによる自作曲のCDを制作します。
- 「コンピューターアシステッドコンポジション」の授業で、1年次より4年間、音楽制作だけにとどまらない、時代の最先端のスキルを修得します。



新コースのカリキュラムは確定次第、ホームページにて発表します。

Message



教授 難波 弘之 Hiroyuki Namba

生まれ変わった本コースで学び、
世界へ羽ばたく人材に。

これまで、作曲「映画・放送音楽コース」「ポピュラー・インストゥルメンツコース」「ソングライティングコース」は、ユニークで優秀な作編曲家、パフォーマーを数多く輩出してきましたが、新たに作曲「ミュージック・メディアコース」として生まれ変わります。
西洋音楽はもちろん、民族音楽や現代音楽、ジャズ、ロック、ポップスなど、ジャンルの垣根を越えて深く追究し、自分の音楽を確立して音楽の空に羽ばたいていってください。

Message



客員教授 佐藤 直紀 Naoki Sato

作曲「映画・放送音楽コース」第1期生

あなたたちの創る音楽がエンターテインメントの世界を変える。
そのお手伝いとして、作編曲法、プログラミングテクニック、アコースティック楽器とシンセサイザーの融合とその可能性、映像における音の役割や技術、商業音楽を職業とするために必要な知識など、今、あなたたちが知りたいと思っていること、知っておくべきことを本コースの講義でできる限りお伝えしたいと考えています。あなたたちのもっている新しい感性と才能はエンターテインメント業界の希望です。混群に紛れることなく、誰よりも高く飛翔し、誰よりも広大なフィールドを巡回する姿を期待して、本気で応援していきます。

主な作品

- 第29回 日本アカデミー賞最優秀音楽賞受賞(2006年)
 - 第31・38・40回 日本アカデミー賞最優秀音楽賞受賞(2008年、2015年、2017年)
- 【映画】「海猿」「ALWAYS 三丁目の夕日」「るろうに剣心」「永遠の0」「STAND BY ME ドラえもん」「マスカレード・ホテル」ほか多数
- 【ドラマ】「GOOD LUCK!!」「WATER BOYS」「コード・ブルー〜ドクターヘリ緊急救命〜」NHK大河ドラマ「龍馬伝」フジテレビ開局60周年特別企画「教場」ほか多数
- 【アニメ】「ふたりはプリキュア」「交響詩篇エウレカセブン」ほか多数
- 【その他】「横浜F・マリノス25周年記念アンセム」JR東日本「TRAIN SUITE 四季島」テーマ曲 日テレ×佐藤直紀×読響「新時代へ」ほか多数

担当教員



- 【教授】 難波 弘之 梶場 富美子 藤原 豊 堀井 勝美
 【客員教授】 伊藤 節子 小六 禮次郎 三枝 成彰 佐藤 直紀 山下 康介 鳴瀬 喜博(エレクトリックベース) 野呂 一生(エレクトリックギター) 市原 康(ドラムス)
 宮城 純子(ピアノコードワーク) Shusui(ソングライティング)
 【特別招聘教授】 千住 明 谷村 新司
 【客員准教授】 後藤 加寿子
 【専任講師】 石川 洋光 後藤 慶一 土屋 真仁 【講師】 梅野 絵里 近江 典彦 小野 昭彦 北中 正和 久田 典子 林 秀幸 本田 綾香

楽曲を深く理解し、自らの意思を伝える。
その情熱から表現は生まれる。



作曲指揮専攻 指揮 Conducting

指揮者として、多くの人々とともにより多彩、より深遠、より豊潤な感動を実現するために、高度な専門知識と技能をもち、深い教養に裏づけられた人格を磨きます。
技能の巧みさや音響的感動だけを追い求めるだけでなく、それぞれの作品が人の心に何をもたらすべく書かれたかを理解し、それを実現するための表現力の獲得を目指します。

- 週1回の個人レッスン。
- 合同レッスンでは、学生有志オーケストラの協力を得て実践的な指揮の体験を積みます。
- 指揮活動の基礎として、複数の楽器のレッスンを受けることができます。
- 12月と1月には「オーケストラ実習」(実技試験を含む)を実施します。

卒業生・在校生からのメッセージ



「人間力」こそが
社会で最も重要で
大切なこと。

石崎 真弥奈
2009年大学卒業 2011年大学院修了
(国立音楽大学附属高等学校卒業)

指揮者は、人とどう接するかが一種の哲学だと感じています。学生時代、音楽の勉強ももちろんですが、「人間力」こそが社会で最も重要で大切なことであると教えていただきました。「逃げたくなるような状況でも、人への愛情をもち続ける」という教えが、現在の私をつくっています。学生時代は「自分がどんな音楽家、指揮者でありたいか」を考え続けることが重要で、それが具体的になっていけば、本学の指揮科は多くの先生が導いてくださるので、夢への行動が加速します。東京音楽大学は自分の可能性に思いきり挑戦し、同時に多くの失敗も経験させてくれる環境。同級生と先輩・後輩という切磋琢磨する音楽仲間が多くいる、人に恵まれた大学です。



「学びたい」という
意思があれば、
いくらでも
学ぶことができる。

小林 雄太
大学4年
(中越高等学校卒業)

指揮にはその人の本質が如実に現れます。「答えがないもの」に対し、自分で考え、いやと言うほど自分と向き合い、時には自分の弱点を受け入れて認めなければなりません。愛情をもって教えてくださる先生方、支えてくれる仲間とともに学ぶことに深く感謝しています。「あらゆる物事に対し、本質を考える力」はここで得られると確信しています。
東京音楽大学には指揮の実技はもちろんのこと、さまざまな分野を広く学ぶことができる環境があります。「学びたい」という意思があればいくらでも学ぶことができる、このすばらしい環境で一緒に学びませんか。

Message

教授 広上 淳一 Junichi Hirokami



指揮者はもちろん、社会に貢献できる人材を育てる。

指揮科ではさまざまな人を広く受け入れる、という理念を掲げています。東京音楽大学は実に刺激的なところ。入学したらぜひ、どんなことにも果敢に挑戦していきましょう。時には挫折を味わうこともあるかもしれませんが、しかし、どんなにマイナスに思えることでも経験して、「絶対ということがない」ことを学んでほしい。それを自分の音楽への糧とし、困難に立ち向かう姿勢があればきっと道は拓けると思っています。ともに真剣に考えることをとおして明晰な頭脳と人間としてのキャパシティを手に入れてください。そして、ここで学んだことを通じて指揮者はもちろん、社会に貢献できる魅力のある人材に育ってほしいと思っています。

主なカリキュラム

| | | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 |
|------|--------|---|--|---------------------------|---------------------------|
| 必修科目 | 専攻科目 | 指揮実技 オーケストラ実習 | 指揮実技 オーケストラ実習 | 指揮実技 オーケストラ実習 | 指揮実技 オーケストラ実習 卒業演奏 |
| | 専門基礎科目 | ピアノ(副科) 音楽理論・スコアリーディング ソルフェージュ 楽器奏法 西洋音楽史概論 | ピアノ(副科) 音楽理論・スコアリーディング ソルフェージュ 楽器奏法 | ピアノ(副科) 音楽理論・スコアリーディング | ピアノ(副科) 音楽理論・スコアリーディング |
| | 英語 | 英語コミュニケーション | 英語コミュニケーション | | |
| | | | | | |

カリキュラムの詳細は
ホームページをご覧ください。



担当教員



田代 俊文 広上 淳一 増井 信貴 ボリス ベルキン

【教授】 田代俊文 広上淳一 【准教授】 野口芳久 リックオヴテン
増井信貴 【特任講師】 川瀬賢太郎 坂元勇仁
【特別招聘教授】 ボリスベルキン 【特別招聘講師】 高島勲 藤井宏一郎

【講師】 石坂宏 新真二 池松宏 石井啓一郎
井上勢津 石川祐支 今川裕代 岩佐和弘(音楽教育講師)
加納明洋 奥田雅代 小野富士(管弦楽講師) 鎌田泉
坂本和彦 川本嘉子 後藤悠仁 後藤良平 田村博文
三河正典 野田清隆 服部亜矢子 藤田崇文 吉野直子
三原明人 米津俊広 米元響子 渡邊稜
河上隆介 【アドヴァイザー-研究員】
原直基 朴賢娥 福田ひろみ
堀大輔 【助手】 西口彰浩 中西亮
茂木大輔 【研究員】 浅野将己 松村詩史

「現場」で生かしていける実践力が、
明日の音楽文化を担う。



音楽文化教育専攻

Studies of Music Culture and Education

2020年4月、音楽教育専攻が「音楽文化教育専攻」として生まれ変わりました。

「文化」という観点から、旧来の西洋芸術音楽だけでなく、さまざまな音や音楽のおりなす世界をとらえ、それらを社会のなかに根づかせ、生かしていく方法を考えます。体験的な学修の場もいろいろ用意し、そこで養われた現代的な知識や感性を生かし、人々の社会や暮らしへとつなげていくことで、学校教育はもとより、さまざまな社会教育的な局面にたざさわる「現場」で活躍できる人材の育成を目指します。

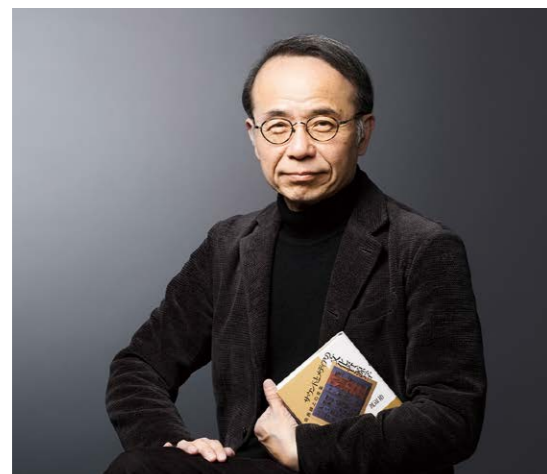
- 1年次は音楽文化の基礎として必修科目を学びます。
- 2年次以降は「音楽文化資源・メディア」「コミュニティ音楽文化教育」「グローバル音楽文化教育」の3領域から、興味に応じて授業を自由に選択します。
- 4年間とおして自分の希望する実技科目を受講することが可能です。

Message

教授 渡辺 裕 Hiroshi Watanabe

急速に変わりつつある
音楽文化の現在に関心のある人、来たれ!!

多様化した現代社会には、旧来の「音楽教育」の枠には取まらないような「教育」の出番がたくさんあります。それをうまくとらえるためには、現代社会における文化やメディアのあり方やその歴史を知り、少子高齢化やグローバル化で社会状況が大きく変わりつつあるなかでの音楽文化の現状を理解することが必要です。音楽が社会のなかで大きな役割を果たす可能性を信じたい、そんな人たちが目を輝かせて集まってくる日々が訪れるのを待っています。



3つの学びの領域

音楽文化資源・メディア

音楽を「芸術作品」としてとらえ、もっぱら「音楽そのもの」ばかりに着目してきたこれまでの見方を見直し、「文化資源」「メディア」といったキーワードを切り口として、音楽が文化全体のなかで機能し、さまざまな形で社会と関わっていく、そのあり方をとらえていくことができるような、文化に対する見方や理論を学びます。

コミュニティ音楽文化教育

地域コミュニティにおける、音楽の役割について学びます。高齢化や過疎化が進む地域において、音楽をどのように地域の課題に役立てるのか。音楽を地域の文化資源として生かす方法を学び、多様な文化が共存するコミュニティで音楽と社会をつなぐコーディネーターとして活躍できる力を養います。

グローバル音楽文化教育

グローバル社会における音楽と教育の役割を学び、国際的なカリキュラムに対応できる指導者としての能力を身につけます。また、ユネスコや国際交流基金の活動についても学び、国際平和、移民教育、人類共通の福祉、文化芸術交流に音楽を生かす方法を探っていきます。

主なカリキュラム

| | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | |
|--------|--|--------|--|--------|--|--------|---|--------|
| | 1セメスター | 2セメスター | 3セメスター | 4セメスター | 5セメスター | 6セメスター | 7セメスター | 8セメスター |
| 必修科目 | 専攻科目 音楽文化教育入門 メディアリテラシー実習 | | 音楽文化教育の最前線 | | | | 音楽文化教育ゼミナール 卒業課題 (論文・実習報告書・制作・研究表現) | |
| | 専門基礎科目 合唱 ソルフェージュ 和声 西洋音楽史概論 | | 合唱 ソルフェージュ 和声 | | | | | |
| 選択必修科目 | 英語 英語コミュニケーション | | 英語コミュニケーション | | | | | |
| | 音楽文化資源・メディア | | 音楽文化資源論/音楽メディア史研究/ 音楽文化資源・メディア特講 | | | | | |
| | コミュニティ音楽文化教育 | | コミュニティ音楽文化論/コミュニティミュージック・セラピー/ コミュニティ音楽文化教育プロジェクト | | | | | |
| | グローバル音楽文化教育 | | グローバル教育学入門/グローバル音楽文化史/ グローバル音楽文化教育プラクティカム | | | | | |
| | ゼミナール | | | | 音楽文化資源・メディア論ゼミナール コミュニティ音楽文化教育ゼミナール グローバル音楽文化教育ゼミナール | | | |

【選択科目】 専攻科目: 個人レッスン(声楽、ピアノ、弦楽器、管楽器、打楽器、古楽器)、インターンシップ実習、ミュージックパフォーマンス(ジャズ、アウトリーチ音楽活動、リトミックなどのグループレッスン)ほか



カリキュラムの詳細は
ホームページをご覧ください。

担当教員

- | | |
|-------------------|---------------------------------|
| 【教 授】 渡辺 裕 | 【兼任准教授】 横山 俊朗(ヴァイオリン) |
| 【客員教授】 ジョン 健 ヌツツオ | 【専任講師】 土屋 真仁(キーボード) |
| 【准 教授】 御邊 典一(ピアノ) | 【講 師】 赤羽 美希(音楽教育) 井上 勢津(音楽療法) |
| 新藤 緑(音学科教育) | 近藤 隆史(情報教育・コンピュータミュージック) |
| 立原 ちえ子(声楽) | 澤口 遊雲子(リトミック) 周東 美材(音楽社会学) |
| 広瀬 宣行(ピアノ) | 福田 裕美(音楽文化政策) |
| | 中村 千鶴(音楽教育) 野中 正(ピアノ) (ほか講師・助手) |

音楽と教養 —2つの柱と実践的な英語力。



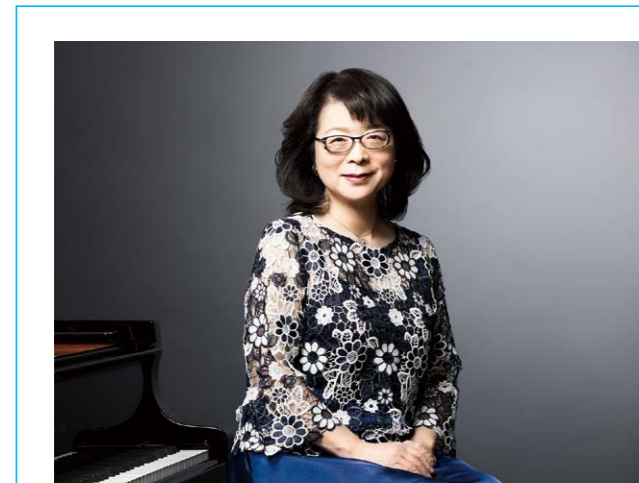
ミュージック・リベラルアーツ専攻

Music Liberal - Arts

「新しい学び」の形

2017年にスタートした日本の音楽大学初の「ミュージック・リベラルアーツ専攻」は、今年1期生が最上学年となり、全学年がそろいました。第一線で活躍する教授陣による音楽実技教育と、さまざまな学問領域においてトップレベルの教授陣による教養科目の「2つの柱」がほかにはない本専攻の特色となっています。ここで学び、実践的な英語力をシステムティックに身につけながら、音楽家はもちろん、世界で活躍できる人材を育成します。

- 第一線で活躍する教授陣による音楽実技教育が受けられます。
- 2年次から幅広く用意されたトップレベルの教授陣によるリベラルアーツ科目を学べます。
- リベラルアーツ科目の授業はすべて英語で行われるため、英語力が格段に身につきます。
- 多種多様な学生と学ぶ「異文化体験」によって、メンタリティ、発想力を磨きます。



教授 岡田 敦子 Atsuko Okada

Message

音楽大学の新しい学びの形。

ミュージック・リベラルアーツ専攻は、未来に向けた音楽大学の新しい学びの形です。本学ならではの高度な実技教育はそのままに、教養科目と外国語科目を刷新しました。声楽、器楽、作曲、指揮とさまざまな専門の学生が集まり、留学生も迎えたクラスは、もうそれだけで刺激に満ちた空間です。音楽一筋という「音大」のイメージを越え、語学もインテリジェンスもという人のために。それは音楽家としての活動を支えるだけでなく、あらゆる分野で活躍できる可能性を広げます。

在校生からのメッセージ



さまざまな刺激を受けながら学べる。

日本のなかで唯一「音楽」と「リベラルアーツ」を同時に学ぶことができる大学があるということを知り、東京音楽大学のミュージック・リベラルアーツ専攻に進学しました。音楽を専門的に学びながら、1年次で英語の基礎能力をしっかりと身につけ、2年次よりリベラルアーツ科目を英語で学ぶことができます。リーディング、ライティングからディベートまで、英語の授業が大変充実しています。レベル別の少人数制クラスで自分に合った授業を受けることができるため、英語スキルがメキメキ上達していきます。今年からリベラルアーツ科目がいよいよはじまります。とても楽しみです。また、上智大学との単位互換制度を利用できるので音楽大学だけでは学べない分野のことも幅広く学べます。さまざまな夢をもった仲間たちがここに集っています。一緒に充実した学生生活を送りませんか？

藤澤 歌音 大学2年（広尾学園高等学校インターナショナルコース卒業）

主なカリキュラム

| | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | | | | |
|-----------------------|--|--------|--------|--|---|-------------|--------|--|--|--|--|
| | 1セメスター | 2セメスター | 3セメスター | 4セメスター | 5セメスター | 6セメスター | 7セメスター | 8セメスター | | | |
| 必修科目/ 選択必修 科目など | MUSIC | | | | | | | | | | |
| | 個人レッスン(声楽・ピアノ・弦楽器・管楽器・打楽器・作曲・指揮・古楽器・邦楽器より選択) | | | | | | | | | | |
| | ソルフェージュ 和声 | | | | [ソルフェージュ・和声・和声分析など(選択科目)] | | | | | | |
| | チュートリアル・イングリッシュ アカデミックライティング アカデミックプレゼンテーション ディベートとディスカッション | | | | リベラルアーツ科目(英語で授業) 人文科学系… ヨーロッパの社会・文化、ヨーロッパ史、音楽史、ジャズヒストリー など 社会科学系… 国際関係論、日本の文化と社会、異文化交流 など 自然科学系… 音楽心理学、音楽療法 など | | | | | | |
| | | | | ビジネスライティング | | 卒業論文ゼミ・卒業論文 | | | | | |
| 専攻科目 | | | | アカデミックリーディング | | | | イントロダクショントゥミュージックヒストリー/ミュージックスタディーズ/MLA資格英語/キャリア演習など | | | |
| 選択科目 | | | | 英語学概論/日本語 | | | | 英語で学ぶフランス語/ドイツ語 | | | |
| | | | | 他の専攻で開講している音楽科目(実技・講座・アンサンブルなど)/交流大学単位互換科目 | | | | | | | |

【そのほかの選択科目】 専攻科目：指導者養成管弦楽・吹奏楽、邦楽実習、ガムラン実習 など
共通科目：音楽基礎科目、教養科目・外国語 など

*英語力が特別に優れている学生はリベラルアーツ科目の一部を1年次から履修可能
*上智大学単位互換科目は2セメスター目より履修が可能

カリキュラムの詳細は
ホームページをご覧ください。



担当教員

【教授】 大竹 紀子* 岡田 敦子* 渡辺 国彦*
【客員教授】 旭 耕一郎 アランクレギン クリストファー イシャウッド 柴崎 かがり 竹内 佐和子 中野 明彦
【特任教授】 曾根 正弘 保倉 裕
【特別招聘教授】 藤崎 一郎
【准教授】 リック オヴァトン
【講師】 ケッチャム 千香子 ダニエル ヴェラスコ バトリックハイン 早坂 牧子 久部 和彦 湯山 恵子 ロバート マッキンタイヤー

*アカデミックアドバイザー



吹奏楽をより深く、アカデミックに学ぶ。



吹奏楽アカデミー専攻

Symphonic Wind Academy

正しい吹奏楽の知識をもった指導者を育成し、その資質を武器にメディアや音楽関連企業、一般企業など業種を問わず社会で活躍できる人材を世の中に送り出すことを目指します。よい指導者である前によい演奏家、よい音楽家となるために、個人レッスンや合奏の授業をとおして確かな技術と豊かな音楽性を獲得します。学生一人ひとりに合わせた個性を引き出す授業科目を多く用意し、学生が希望する進路に合わせた学修内容を選べる、専攻独自のカリキュラムを構成しています。

- 「バンドディレクション」では、さまざまな指導法に触れ、方法論や計画性、コミュニケーション能力を身につけます。
- ワークショップでは吹奏楽にまつわるさまざまな職業の実地に立ち会うなど、実体験をします。
- 吹奏楽で用いられるすべての楽器に関する知識を身につけ、指導法や作編曲に結びつけます。
- 段階的に設定された理論系の授業で学ぶことで、吹奏楽の作編曲の能力を修得します。
- マーチングやポップス、作曲など専門性の強い分野に関する知識と能力をより深化させる授業科目も充実しています。



教授 小串 俊寿 Toshihisa Ogushi

Message

夢は見るだけでなく、つかみ取ろう。

「バンドディレクション」では全国で活躍されている教育現場の先生方をお招きして、吹奏楽指導法や運営法、ゼロからのバンドの立ち上げ方など、将来現場に立った時に実践できる生きた講座を展開します。また、「吹奏楽合奏」では、吹奏楽アカデミー専攻講師陣が常に合奏と一緒に演奏しながらアドバイスをし、合奏指揮と「指揮法」は下野竜也特任教授を中心に、小林恵子講師、横山奏講師の3人が指導します。このほかにもすべてが実践的で魅力あるカリキュラムになっています。この世界、時には壁にぶち当たりますが、その壁を乗り越えた時、楽しさは何倍にもなる。さあ、一緒に夢に向かっていきませんか？

在校生からのメッセージ



卒業後の自分の成長が楽しみです。

吹奏楽アカデミー専攻は2019年4月に開設された専攻で、目標は吹奏楽全般を幅広く学んだプロフェッショナルの育成です。4年間の学生生活のなかで、楽器の個人レッスンだけではなく、合奏の指導法、教育現場で活躍されている吹奏楽部の先生方から部の運営方法、自分の専攻以外の楽器も実際に触れながら学ぶことができます。マーチングは吹奏楽アカデミー専攻だけの授業です。合奏形態の授業では著名な講師陣に参加いただき、演奏について親身にアドバイスをもらえます。このような環境下で、自分は入学して1年間で演奏面や吹奏楽に対していい意味での変化や成長を遂げられたと感じています。4年後の自分がどのようになっているのが楽しみです。皆さんも吹奏楽アカデミー専攻に入って技術や知識を吸収してみてください。

片桐 楓紘 大学2年（足立学園高等学校卒業）

主なカリキュラム

| | | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | | |
|------|-------------------|----------------------|--------|----------------------|---------------|----------------------|--------|----------------------|--------|--|
| | | 1セメスター | 2セメスター | 3セメスター | 4セメスター | 5セメスター | 6セメスター | 7セメスター | 8セメスター | |
| 必修科目 | 専攻科目 | 専門楽器実技 バンドディレクション | | 専門楽器実技 バンドディレクション | | 専門楽器実技 バンドディレクション | | 専門楽器実技 バンドディレクション | | |
| | 専門基礎科目 | 指揮法 | | | | | | | | |
| | | ピアノ(副科) | | | ソルフェージュ | | | | | |
| | | ソルフェージュ 和声 | | | ソルフェージュ 和声 | | | | | |
| 英語 | 西洋音楽史概論 楽器別指導法 | | | 吹奏楽史 | | 作曲法 | | 吹奏楽作編曲概論 | | |
| | 英語コミュニケーション | 英語コミュニケーション | | 英語コミュニケーション | | | | | | |

【選択科目】

専攻科目：卒業演奏または卒業制作、吹奏楽合奏、吹奏楽作編曲演習、スコアリーディング、指揮法演習

専門基礎科目：メディアリテラシー、吹奏楽ポップス概論、吹奏楽ポップス演習、吹奏楽ジャーナリズム概論、マーチング概論、マーチング演習、ワークショップ、管打アンサンブル

カリキュラムの詳細はホームページをご覧ください。



担当教員



- | | | | | |
|---|--|--|--|--|
| 【教授】 小串 俊寿(サクソフォーン) 外園 祥一郎(ユーフォニアム) | 【特任教授】 下野 竜也(指揮) 【客員教授】 天野 正道(作曲) 井芹 康貴(マーチング) 星出 尚志(作曲/ポップス) | 【講師】 山内 豊瑞(フルート) 原 浩介(クラリネット) 石川 善男(ホルン) 川野 聡子(ユーフォニアム) 坂本 雄希(打楽器) 横山 奏(指揮) | 堀口 憲一(オーボエ) 中川 日出鷹(ファゴット) 荻原 明(トランペット) 木村 圭太(チューバ) 藤井 将矢(コントラバス) 松下 倫士(スコアリーディング) | 近藤 薫(クラリネット) 夢沼 雅紀(サクソフォーン) 渡邊 善行(トロンボーン) 平子 ひさえ(打楽器) 小林 恵子(指揮) 近藤 隆史(情報・コンピュータ・ミュージック) |
|---|--|--|--|--|



教育現場で役立つ実践的カリキュラムで、
課題に取り組む。

にする心
・社会の一員であるという自覚を
福祉施設などでのボランティア
活動など、

教職課程 Teacher Training

教職課程は、教育職員免許状を取得するための課程です。教育職員免許状を取得するためには、法律に定められた所定の単位を修得する必要があります。

本学では、教育職員免許状を取得した後に大事になる「人間性や社会性」を培う場としての教育を行っています。今後も講座内容を充実させるとともに、きめ細かな指導をとおして、実際の教育現場で活躍できる音楽教師を育成していきます。履修にあたっては、次のような教員となるべく明確な目標意識をもつよう指導しています。

- 【育成する教員像】
- 教師として使命感や誇り、子どもに対する愛情や責任をもつ。
 - 教師として確かな力量を備え、常に学習する意欲をもつ。
 - 教師として豊かな人間性や社会性、人格的資質をもつ。

取得できる免許状

- 中学校教諭一種免許状(音楽)
- 高等学校教諭一種免許状(音楽)
- 小学校教諭二種免許状
(明星大学通信教育部との教育業務提携による免許状取得)



教職に関する科目

実際に教える現場を意識したカリキュラムが多く組まれています。教員採用試験に必要な面接対策や小論文の書き方、話す力を身につけるための「教職特別演習」、模擬授業が行える「音楽科教育法」「教職実践演習」など、教員採用試験対策に直結しています。

【必修科目】

教職論 教育原理 教育心理 教育経営論 教育課程概論
教育の方法と技術 音楽科教育法 道徳教育指導論
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法
生徒・進路指導論 教育相談概論 教職実践演習 教育実習

【選択科目】

教材研究 音楽の指導法 教職課程管弦楽
教職課程吹奏楽 教職特別演習

卒業生の
2.1名に1名が
教育職員免許状
を取得

2020年 教員新規採用者数

| | 東京都 | 埼玉県 | 千葉県 | 他 県 | 合計 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 国公立 | 16名 | 2名 | 5名 | 2名 | 25名 |
| 私立 | 2名 | | | | 2名 |

教職課程管弦楽・吹奏楽

毎年多くの学生が履修する、本学独自の科目です。最大の特長は「自分の専攻以外の楽器」を体験できること。自ら苦勞しながら合奏を経験することで、はじめての楽器を前にして上手に演奏できない子どもの気持ちを理解し、さらにはアンサンブルのよこびとともに指導方法を学べます。合奏では各パートの教員が隣で一緒に演奏するため、「本物の音」を知る経験ができます。毎年行われる「夏期強化合宿」では、団体行動における指導方法まで実践から学べます。実際に教壇に立った時、また、部活動で教える際にも生きてくる有意義な授業です。



卒業生からのメッセージ



先生方、仲間たちとのつながりを大切に。

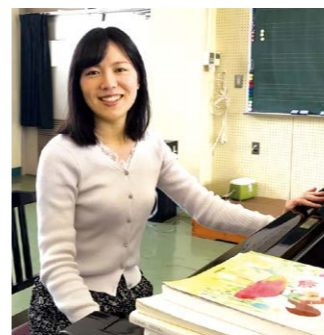
教職課程では、先生方の手厚いフォローが受けられることと、音楽を幅広く学べることが魅力だと思います。在学中、教職課程の先生方には、採用試験の対策を大変熱心にご指導いただいたほか、教育ボランティアなど貴重な経験の場をたくさん与えていただきました。また、吹奏楽や箏のレッスンなどをとおして、専門以外の楽器を学ぶこともできました。今現場で働いてみて、金管バンドの指導や子どもたちとの関わりなどさまざまな場面で、大学での学びと経験が役に立っていると実感しています。これから教員を目指す皆さんには、教職課程の授業や先生方、仲間たちとのつながりを大切にして、励んでもらえたらと思います。

足立区立小学校 教諭 中濱 佑唯 ピアノ 2019年大学卒業 (東京音楽大学付属高等学校卒業)

授業で扱った資料は、今でも私の宝物。

教職課程を履修しながら、専攻のトロンボーン演奏活動も積極的に行っていました。コンクールや演奏会をこなしながら勉強する苦勞も多くありましたが、先生方や教職担当の方は私の夢を理解し応援してくださいました。教育実習の充実感が忘れられず、教員か演奏家か進路に悩んでいた時には親身に相談に乗って、背中を押してくださいました。卒業後も、相談や悩み事などあれば手厚くサポートしていただき、無事採用試験に合格できました。教職課程は、実践的な学びも多く、授業で扱った資料などは今も宝物でさまざまな場面で活用しています。これまでの経験や学びを生かし、夢に向かう生徒を多く育てていきたいと思っています。

市川市立妙典中学校 教諭 秋本 彩乃 トロンボーン 2018年大学卒業 (習志野市立習志野高等学校卒業)



教職課程の魅力は、吹奏楽の授業。

教職課程の魅力は、管弦楽または吹奏楽の授業が受けられることです。現在私は、吹奏楽部の顧問をしています。高校の音楽の教員になるためには、声楽とピアノは必須ですが、おそらくほぼ確実に吹奏楽部の顧問をもつことになると思うので、ここの授業がとても役に立っています。また、本格的に教員採用試験に臨むならば、教職特別演習を受講することをおすすめします。私は大学3年の冬からのかなり遅いスタートでしたが、先生方や先輩方、多くの仲間を支えられたおかげで無事に試験に合格することができました。本当に感謝しています。

埼玉県立日高高等学校 教諭 棚澤 衿香 ピアノ 2018年大学卒業 (埼玉県立熊谷女子高等学校卒業)

担当教員

【教授】 関本 恵一 村中 洋子 和田 崇
【客員教授】 東條 誠 野本 正平
【特任教授】 工藤 豊太

【准教授】 新藤 緑 野口 芳久 リック オヴァトン
【講師】 荒井 智子 大澤 和幸 大橋 永児 加納 明洋 齋藤 博志 崎谷 菜穂子
瀧口 亮介 藤田 圭一 古山 光久 升谷 直嗣 三好 仁司 吉澤 徹

幅広い教養

■ 上智大学・聖心女子大学との単位互換制度

東京音楽大学では、他大学で学び交流することを通じ、視野を広げることを目的に、2010年度より上智大学と単位互換型の学生交流制度を設けています。2年次以上の全専攻の学生を対象に、上智大学の500以上の講座から受講が可能です。また、2020年度より、聖心女子大学と単位互換制度を開始します。相互に教育内容の充実を図り、交流を深め、学生に対して多様な価値観に基づく学修機会を提供することを目的とし、両大学で取得した単位は本学の単位として認定されます。提携校の学生も本学で実技を含めた科目を学んでおり、双方にとってよい刺激となっています。



上智大学



聖心女子大学

受講生からのメッセージ

刺激になった、学びに取り組む姿勢。

私は、音楽をとおして国際社会に貢献したいという思いから、上智大学の単位互換制度を利用して「グローバル化と国際貢献」を受講しました。さまざまな国際問題を学ぶこの講座では、毎回講師も入れ替わるため、多角的な視点に立って提起された問題を考えることができました。講座を受けた上智大学の学生の多くは、発展途上国で実際に支援活動をした経験があるなど、授業への関心が高く、積極的に発言をしていました。国際協力は、一方的支援ではなく助け合うことで平等に豊かな社会を目指す双方向的支援であることを学び、根本的な考え方を見直すきっかけとなりました。盛んに意見交換をしたことで交流を深めることができ、大変よい刺激を受けたと感じました。

中河原 美紗 クラリネット 2020年大学卒業（東京音楽大学付属高等学校卒業）

■ アートマネジメントを学ぶACTプロジェクト

学内外で行われるコンサートの企画・制作・広報を実践する「学生による音楽事務所」で、アートマネジメントの仕事を学年や専攻を越えたチームで実体験できます。活動にあたっては、複数の教職員が協働して指導・サポートするのが特徴で、企画力、コミュニケーション能力、リーダーシップやプレゼンテーションのスキルが養われます。「音楽キャリア実習」として履修することで単位認定されます。



■ 神戸女学院大学音楽学部との連携講座

神戸女学院大学音楽学部と共通科目を設け、インターネット配信による同時中継授業を通じて、教育・地域・福祉の場で音楽を生かす方法を学びます。連携講座では、音楽がもっている楽しさや人と人をつなげる根源的な力に目を向け、多様なニーズに応える音楽プログラムを企画・実践していくことのできる人材の養成を目指しています。「ミュージック・コミュニケーション講座」として履修することで単位認定されます。

■ 実践力重視の英語教育

世界で広く活躍するための必須スキルである英語。音楽の分野においても、各国のプレイヤーと現場をともにしたり、国際的なコンクールに出場したり、さまざまな場面で高い英語力が求められます。東京音楽大学では1年次の全専攻において英語の履修を必修としています。外国人教員を含めた指導陣のもとで、グローバル・スタンダードな教材を使用し、レベルに応じた少人数制クラスを編成。特に、コミュニケーション能力の向上に力を入れ、会話やグループディスカッションなどを積極的に取り入れた授業により実践的な語学力を養います。また、Skypeを利用し、どこにいても学べる「イングリッシュ・スタディ・センター」を開設するなど英語を学ぶ環境が整備されています。



■ 専攻・ジャンルを越えて学べる実技



全専攻の学生を対象に専攻以外の実技科目やクラシック音楽以外のジャンルを個人レッスンで履修することができます（専攻によって受講の条件が異なります）。

邦楽器（三味線、箏、琵琶、尺八）や古楽器（チェンバロ、オルガン、リュート、リコーダー）などすべて初歩から学べます。ジャズのグループセッションも開講しています。

■ 専門基礎科目

【音楽学関連科目】 音楽理解の基盤である「西洋音楽史概論」を中心に、多面的な音楽研究への道を拓きます。音楽学の知識をより深めたいという学生のための「音楽学課程」では、少人数のゼミナール形式によるきめの細かい指導が行われます。

- 西洋音楽史概論
- 歌曲史
- オペラ史
- ピアノ音楽史
- 管弦楽曲史
- 楽譜学
- 音楽分析学
- 音楽学特講
- 世界音楽概論
- 世界音楽特講
- 日本音楽史概論
- 日本音楽史特講
- 音楽美学
- 西洋音楽史演習
- 日本音楽史演習
- 世界音楽演習
- 音楽文献研究
- 論文作成

【ソルフェージュ科目】 1・2年次の「ソルフェージュ」では、グレード別のクラス編成でさまざまな時代の記譜法・音楽様式・作曲家の特徴を学びながら読譜能力を高め、3・4年次では、学習目的別選択のクラスが多数開講しています。

【音楽理論関連科目】 1・2年次の「和声」では、機能的な和声進行について学習し、3・4年次では、選択科目としてより高度な和声学を学びます。また「和声分析」や「対位法概論」の授業も開講しています。

■ 専門共通科目

自由に選択できる専門共通科目を開講しています。

- 合奏
- 独唱及び合唱
- ドイツ語歌詞研究
- 古楽概論
- ピアノ演習
- 合唱
- ドイツ語オペラ台本研究
- 古楽合奏
- 作曲法
- 現代音楽の解釈と奏法
- イタリア語歌詞研究
- ガムラン実習
- 指揮法
- アジア音楽の理論と奏法
- イタリア語オペラ台本研究
- 音楽キャリア実習
- 日本伝統音楽
- マルチメディア演習
- 通奏低音奏法
- ミュージック・コミュニケーション講座

■ 基礎教育科目

【外国語科目】 ■ 英語 ■ ドイツ語 ■ フランス語 ■ イタリア語 ■ スペイン語 ■ ロシア語 ■ 中国語 ■ ラテン語

【教養科目】 ■ 心理学 ■ 宗教学 ■ 哲学 ■ 倫理学 ■ 応用倫理学 ■ 日本・東洋文学 ■ 西洋文学 ■ 芸術学 ■ 日本史 ■ 西洋史 ■ 東洋史 ■ 日本文化論 ■ 西洋文化論 ■ 東洋文化論 ■ 環境と経済 ■ 現代社会と法 ■ 憲法 ■ 数学 ■ 宇宙科学 ■ 自然科学 ■ 日本語表現法 ■ 教養演習 ■ 健康・スポーツ科学理論 ■ スポーツ科学実技 ■ 音声学 ■ 音楽療法 ■ 情報メディア

担当教員

| 音楽学 | 外国語 | フランス語 | 教養教育 |
|--|--|--|---|
| 【教授】 坂崎 則子 武石 みどり 藤田 茂 村田 千尋 | ■ 英語 【教授】 中澤 はるみ 【講師】 アダム マーフィ 鴨下 恵子 崎谷 菜穂子 ダニエル ヴェラスコ ヴァルトマル 早坂 牧子 久部 和彦 ブライアン コリンズ 湯山 恵子 | 【客員教授】 アラン クレギン 【講師】 土屋 良二 ■ イタリア語 【教授】 鈴木 信五 【講師】 エルマンノ アリエンティ 大崎 さやの 古田 耕史 マリアンジェラ ラーゴ 森田 学 ■ スペイン語 【講師】 バプロモンリアルカンパニ ■ ロシア語 【講師】 浜野 アーラ ■ 中国語 【講師】 藤越 ■ ラテン語 【教授】 鈴木 信五 | 【教授】 豊永 聡美 本間 晴樹 村中 洋子 【客員教授】 佐野 知子 渡邊 迅 【准教授】 岡部 英男 岡部 正博 高橋 宗一 寺島 伸一 羽石 祐一 【講師】 岡田 誠 沖山 延史 荻野 美佐子 ダイアナ ツルダ 平田 紀子 宮越 俊光 村澤 慶昭 藤田 圭一 |
| 【講師】 赤木 舞 太田 暁子 園田 みどり 鄭 理輝 新林 一雄 平野 昭 | ■ ドイツ語 【教授】 渡辺 国彦 【講師】 石原 竹彦 葛西 ジャネット 南 はるつ リタ プリール | | ■ ガムラン 【講師】 木村 佳代 針生 すぐり 樋口 文子 ■ ジャズ 【准教授】 リック オヴァトン ■ 電子オルガン 【講師】 小林 由佳 |
| 【教授】 花場 富美子 藤原 豊 【客員教授】 伊藤 節子 日野原 秀彦 【准教授】 荒尾 岳児 岡島 礼 山洞 智 | | | |
| 【講師】 伊左治 直 石川 薫 樋田 彰 河野 泰子 國分 正頼 小林 弘人 嶋田 留美 高橋 和江 田上 英江 藤原 亜美 茂木 真理子 山田 武彦 | | | |
| 【講師】 三味線(長唄) 杉浦 孝夫 菊地 大 | ■ 箏(生田流) 滝田 美智子 【客員准教授】 内藤 久子 | ■ 琵琶(薩摩) 首藤 久美子 | ■ リコーダー 水戸 茂雄 【講師】 吉澤 徹 |
| | | ■ 尺八(琴古流) 柿塚 香 | |
| | | ■ リュート | |

皆さんの音楽観の形成は 東京音楽大学での出会いからはじまります。



切磋琢磨し合う仲間や、専攻の垣根を越えたアンサンブルとの出会いが、皆さんにとっての音楽探求を通じた人間形成の場となり、将来の目標を自ら見つけるきっかけとなります。—— 学長 野島 稔

自分が作った曲が 実際に演奏される

作曲を学ぶ学生にとって自作品を実際の音に出すことには、レッスンを受けるだけでは知り得ない多くの学びがあります。普段から専攻を越えた学生間の交流がさかんな東京音楽大学では、作曲を学ぶ学生の作品に対して、器楽や声楽専攻の学生たちはいつも積極的に、そして真剣に演奏してくれます。そのようなリベラルな校風に加え、充実したカリキュラムはもちろん、学内外での演奏会も多いのも魅力です。4年間をとおし、創作における土台を耕すには大変に魅力的だと思います。

福丸 光詩 作曲「芸術音楽コース」
2020年大学卒業（作新学院高等学校卒業）

同時代を生きる学生が 書いた曲を演奏できる

授業はクラシックが中心ですが、いくつか参加している有志オーケストラではゲーム音楽やポップス、古楽から現代曲まで演奏できる。指揮者がいて、演奏スキルをもった積極的な奏者がいて、練習場所と演奏会ができるホールがある。東京音楽大学にはこれらがそろっているからこそ、自分たちのやりたい表現・演奏が実現できるのだと思います。同年代の学生が書いた楽曲を演奏する時は、クラシックと違い、なじみのない拍子が出てきたり、音源が存在しないため、楽曲のイメージをすべて楽譜から読み取る必要があります。譜読力もつき、とても勉強になっています。

松川 葉月 ヴァイオリン 4年
（都立総合芸術高等学校卒業）

他専攻生による生の演奏で 一緒にレコーディングを経験

授業では作曲はもちろん、レコーディングの経験とともに演奏者を自分で集めたり、コミュニケーションをとったりするなど作曲家として大切なことをたくさん学ぶことができます。昨年、オーケストラパートは打ち込みで、合唱パートは声楽専攻生と作曲「芸術音楽コース」生8名に歌ってもらって「英雄」という曲を制作しました。このようにコースの垣根を越えて一緒に音楽を作り上げていけるのは貴重な経験です。生の演奏が入ることによって、作曲家が思っている表現以上のものが生まれることを体験することができました。演奏者の方々もレコーディングに大変興味をもって参加してくれたので、お互いにとって学びの多い経験になりました。

河野 宥槻 作曲「映画・放送音楽コース」4年
（大分県立芸術緑丘高等学校卒業）

他者の音と響き合った時の感動が 私の心を震わせた

アンサンブル。それは音楽を通じて、共演者と交わし合うコミュニケーションの一種です。アイデンティティの主張が少々激しい私にとって、人とうまく調和することは難しく興味深いもの。先輩ピアニストとの即興演奏や、舞台基礎演技法の授業でプロの先生方と紡いだ重唱。作曲科の友人が書き下ろした新曲を歌ったり、寮生活の卒業記念に行った演奏会では、卒業生による即席オーケストラをバックにオペラ「カルメン」の aria を披露しました。私だけがもっている音が、ほかの誰かの音と響き合った時、心が震えるような感動を味わうのです。東京音楽大学で経験したこれら一つひとつが、私の音楽観も、私という人間も大きく成長させてくれました。

大附 仁美 声楽演奏家コース
2020年大学卒業（埼玉県立大宮光陵高等学校卒業）

呼吸を合わせて同じ空気を共有する すばらしさを感じて伴奏の道に

東京音楽大学は、互いに助け合い、切磋琢磨しながら成長できる、同世代の音楽を志す仲間とたくさん出会える場所です。自分の専攻はもちろん、ほかの楽器や声楽の方と一緒に演奏する機会が多かったことが、私の音楽に対する考え方を大きく変えてくれました。アンサンブルをとおして呼吸を合わせ、同じ空気を共有できるということに、ソロとはまた違った楽しさ、音楽のすばらしさを感じることができ、大学院から伴奏の道に進みました。室内楽や伴奏法、ピアノデュオ講座などアンサンブルの授業も充実しているので、先生方からの専門的なアドバイスを受けながら、ぜひたくさんの仲間と素敵な音楽体験をしてください！

榎本 詩帆 ピアノ演奏家コース
2018年大学卒業 2020年大学院伴奏修了（千葉県立富里高等学校卒業）



声楽専攻生以外も受講できる「合唱」での プロとの共演は鳥肌が立つほどの感動

「合唱」の授業の魅力は、他専攻の学生や先輩、後輩など多くの人と知り合うことができることだと思います。休み時間のたわいもない話や練習をとおしてどんどん友人の輪が広がっていき、学年を越えた出会いがたくさんできました。合唱の集大成は年末の「第九」です。オーディションを通過し、指揮者合わせなど臨時練習を数多く行い、本番に向かいます。日本フィルハーモニー交響楽団の名だたるソリストや指揮者との共演は鳥肌が立つほどの感動でした。それだけでなく、退場する際に、お客さまから盛大な拍手を送られました。こんな温かい拍手は生まれてはじめての経験でした。得るものがとても多く、ここでしか味わえない合唱の魅力を感じてみてください。

篠原 琢尚 音楽文化教育専攻4年（埼玉栄高等学校卒業）



学生有志オーケストラで指揮の実践を学ぶ 対話型授業「合同レッスン」で人間力を磨く

指揮科の授業である「合同レッスン」は、指揮台にのぼる学生に限らず、参加するすべての学生たちにとって多くのことを学ぶ場となっています。レッスン当日までに指揮科の学生は楽曲の勉強はもちろん、器楽専攻の学生を募り、実際に音を出すまでにたくさんの時間を準備に使っています。そしてレッスン当日、その場に居る学生全員が、オーケストラの現場で活躍される先生方のご指導を受けることができます。私は大学に入学するまで、オーケストラの経験がありませんでした。2年次ではじめて合同レッスンに参加して、奏者としてオーケストラで要求される技量や知識を身につけるきっかけとなりました。専攻の枠を越えて、たくさんの人と交流できる絶好の機会でもあります。

高松 真紀 クラリネット 2020年大学卒業（栃木県立真岡女子高等学校卒業）

ジャンルを越えて学べる実技

邦楽



教職課程の授業で受けた邦楽器体験で興味をもち、琵琶の八の字という奏法がとてまかつよく、演奏してみたいと思い大学4年から1年間琵琶のレッスンを受講しました。琵琶を学んで、これまで楽譜にとらわれ過ぎていたということに気がつきました。フレーズが大切と言われても、楽譜上のフレーズを記号としかとらえられていなかったということ、呼吸が音楽を左右している、演奏は生きているんだということを実感できるようになりました。卒業後は、留学を視野に入れながら活動の中心であるブラジル音楽(Bossa Nova guitar)をもっと追求していきたいと思っています。よい気づきを得た琵琶も機会を見つけて続けていきたいです。

赤澤 凜太郎 作曲「芸術音楽コース」2020年大学卒業（東京音楽大学付属高等学校卒業）

ジャズ・アドリブ奏法



「ジャズ・アドリブ奏法」を履修したきっかけは、専攻がクラシックサクソだったので、ジャズやポップスの演奏もできるようになりたい!と思ったからです。最初は興味本位でしたが、受講生で行うセッションやビッグバンド、そしてリック先生のすばらしいご指導の下、どんどんジャズの魅力に惹かれていき、今ではジャズ・ポップスの演奏が活動のメインになりました。「ジャズ・アドリブ奏法」を受講したからこそ見えてくるクラシック音楽の魅力や考え方があります。この授業・レッスンをとおして自分のなかにあった音楽の世界をより一層広げることができたと感じています。

西 翔 サクソフォーン 2020年大学卒業（小松市立高等学校卒業）

ガムラン



入学してからジャワ・ガムランの授業があることを知り受講しました。西洋音楽とはちがう演奏方法、知識はもちろんですが、ほかの人と一緒に演奏する本当の楽しさもここで学ぶことができます。ジャワ・ガムランを3年間学んだことによって、アンサンブルの楽しさに加えて、ほかの楽器との音のコミュニケーションの取り方を学ぶことができました。ジャワ・ガムランで培った能力は専攻の打楽器のアンサンブルや吹奏楽などで生かされています。インドネシアのような温かい雰囲気、楽器の青銅の響きによる癒しのある空間で、初心者も気軽に受けることができる授業です。

加藤 駿吾 打楽器4年（同朋学園同朋高等学校卒業）



グローバル教育

「音楽は国境を越える」という考えのもと、東京音楽大学は国際的な視野をもった演奏家、教育者、企業人の育成に力を入れています。ヨーロッパはもちろん、近年目覚ましい発展を遂げるアジアにおいてさまざまな取り組みを行うとともに、グローバル時代に対応する人材の育成を目的として新たなプログラムを展開しています。

■ ヨーロッパへの留学

短期留学がさかんで毎年ヨーロッパの名門音楽大学に学生を派遣しており、2019年度ははじめてショパン音楽大学、モスクワ音楽院に学生を派遣しました。2020年度は13名の学生が参加する予定です。

トップレベルの総合大学との提携にも力を入れています。2018年度にはイギリスの名門サセックス大学に2名の正規留学生を送り出し、2019年度はバーミンガムシティ大学(RBC)に1名、ハダースフィールド大学に2名が交換留学しました。

バイエルン州立青少年オーケストラと提携し、5年前より毎年2回ドイツで行われる合宿と演奏ツアーに約30名の学生が公費で参加しています。

■ アジアとの交流

近年のアジアにおける音楽文化の興隆を受け、アジアの優秀な演奏家や教育者の育成を目的として、本学は積極的な展開を行っています。

中国においては西安音楽院と提携を行い、活発な交流を行っています。2019年度には南京芸術学院との交流演奏会を開催しました。

台湾においては台北に本学の連絡事務所を開設し、台北、台中、高雄の大学と連携し、2019年度は国立台北藝術大学と交流演奏会を行いました。

インドネシア国立芸術大学スラカルタ校と2019年度に教育研究連携協定を調印し、アジアとの交流の枠を広げました。

本学は付属民族音楽研究所も擁しており、現地の講師を招いての講座などアジアの音楽を通じたさまざまな交流が行われています。

■ 主な交換留学提携校 (2020年4月1日現在)



認定留学制度

■ 留学中の学費について

留学中は本学および留学先教育機関への学費の二重の負担が発生しない制度を設けています。

■ 単位の認定が可能

1年間(2セメスター)までの留学期間中に海外で修得した単位は、審査の上、本学の単位として認定され、4年間での卒業が可能です。

■ きめ細かなサポートがある

留学に際して、安心できる留学先の選定、出願をはじめ、各種手続きなど、大学がきめ細かくサポートをします。

■ 充実のマスタークラス

世界で活躍する演奏家や教授からの直接指導。

本学の大きな特徴として、国内外の招聘音楽家によるマスタークラスが挙げられます。本学のキャンパスで世界のトップレベルの演奏家や教授のレッスンを受けることができ、このような機会をステップにして留学する学生や、コンクールで優秀な成績を取る学生も数多く、将来の夢を叶える一助になっています。2019年度は、エリソ ヴィルサラゼ氏、ボリス ベルキン氏、セルゲイ クラフチェンコ氏をはじめ名演奏家の公開マスタークラスを多数開催しました。



Paavo Järvi
パーヴォ ヤルヴィ



Eliso Virsaladze
エリソ ヴィルサラゼ

交換留学生対談

ワンジュン：先生たちは本当に素晴らしいレベルが高い。学生のレベルも本当に高く、オーケストラもソロも上手。中目黒・代官山キャンパスは建物も新しい、ピアノも新しい。池袋キャンパスにもたくさんの教室と練習室があって、とても気に入っています。

トマス：ヨーロッパでは通常1人の先生からしか習えないのですが、ここでは2人の先生に教えてもらえる。2つの異なる意見を聞いて練習できるから、ダブルレッスン制はすごくいいと思います。あと、音楽大学にしてはとてもめずらしい科目もけっこうあって、たとえば文学の授業。それぞれの理論や印象を意見交換して。交換留学生も参加できる音楽以外の授業もあるので、とてもおもしろい。

ワンジュン：ピアノ以外にもガムランと箏のレッスンも受けました。ガムランについてはレッスンがあること自体知らなかったのですが、やってみてすごくよかったです。ヨーロッパにはない、すごく充実した授業で、いい経験ができました。箏も熱心に教えてくださり、たくさん学べました。

トマス：交換留学をとおして私にとってよかったのは、音楽以外のことでも新しいことにたくさん触れられたことです。それがやがて音楽にもつながっていくでしょう。2つの文化が交差するのを体験するのは本当にいいことで、それを越えた時にもっと広い視野をもてる。皆さん、海外に目を向けましょう！もし機会があったら、ぜひ交換留学にチャレンジしてみてください。本当におすすめです。



Tomas Aaron Viljasalo
トマス アーロン ビルヤサロ
(音楽教育/フィンランド)

Wanjun Lu
ワンジュン
(ピアノ/スペイン)

2019年度 認定交換留学制度を利用しサセックス大学に正規留学

海外の総合大学で、多岐にわたる学びを体験。



東京音楽大学は単科大学なので、留学するならばさまざまな専門分野を学べる総合大学がいいと考えていました。専攻の柴崎かがり先生には直接サセックス大学の先生とつながっていただき、大変お世話になりました。留学中の本学の学費免除と単位認定は、留学に踏み込む際の大きなメリットでした。大学の課題や実技試験に加えて、留学のための語学資格試験であるIELTSの受験とビザの申請や渡航準備の同時進行は大変でしたが、自分で成し遂げるいい経験になったと思っています。ブライトンはロンドンへ通いやすい海沿いの街で、穏やかかつ活気のある場所です。音楽科目のみならずビジネス学や心理学、生理学、開発学、さらには国際交流など多岐にわたる学びができるため、新しい発見や、自分が学んでいる部分で活用できることの多さに総合大学の利点を感じました。サセックス大学で学んだことを、音楽やメディアの世界で活用していきたいと思っています。

佐々木 佑紀 ミュージック・リベラルアーツ専攻4年(青山学院系属 浦和ルーテル学院高等学校卒業)

東京音楽大学は チャレンジの精神を 大切にします。

本学の学生はコンクールに意欲的にチャレンジし、毎年の入賞、入選者は100名を超えます。

音楽家の登竜門ともいわれる国内外のコンクールで優秀な成績を収め、現在第一線で活躍している卒業生が数多くいます。



© Evgeny Evtyukhov 写真提供:チャイコフスキー国際コンクール/ジャパン・アーツ



藤田 真央
2020年早期卒業



瀧本 実里

2017年大学卒業、2019年大学院科目等履修生修了



若林 毅

2017年大学卒業

第16回 チャイコフスキー国際コンクール 第2位

繊細さ、一音一音を大切にするというのは大学入学後に野島先生から教えていただいたことです。それが私の財産になっています。野島先生からは「藤田くんは演奏の楽しさを聴衆に直接伝えられる稀な奏者だ」とも言われました。常に自分自身が演奏を楽しみながら、お客さまのために音楽のすばらしさを伝えたい。そのために演奏の際には感情が先走らないようにいつも心がけています。音が追いつかないことのないように自分を自分の監督下に置き、手綱を引きつつ、冷静に判断する。その中でいかに楽しむかを考えるようにしています。私はまだ20歳で若いのでまだまだ成長できる兆しがある。自分で音楽を創っていかねばいけません。それには足りないものが多すぎます。入賞に伴い、ロシアやヨーロッパなどでの入賞者演奏ツアーがはじまります。今までと同じように一つの演奏会を大切にしていきたいです。野島先生から、人々の記憶に残る演奏家になりなさいと言われました。そうなれるようにがんばっていききたいと思います。

第88回 日本音楽コンクール フルート部門 第1位

第17回 東京音楽コンクール 木管部門 第1位

第24回 びわ湖国際フルートコンクール 一般部門 第1位

同門の学生はみな積極的にコンクールにチャレンジしていて、私もそんな雰囲気の中1年次からコンクールに挑戦していました。東京音楽大学の学生はさまざまな面で恵まれていると思います。指導して下さる先生方は第一線で活躍されている先生方ばかりですので、百戦錬磨の経験から実践的なアドバイスをくださいます。「日本音楽コンクール」本選の前には、100周年記念ホールを使わせていただき、本番の響きをイメージした練習ができました。また、フランスのリュエイク＝マルメゾン音楽院への短期留学など、個人ではなかなか体験できないことを大学の協力のもと経験させていただくこともできました。卒業してからは、演奏現場で同期と一緒にすることがあり、音楽の業界ではこんなにもたくさんの卒業生が活躍しているのだと改めて気付かされます。東京音楽大学には仲間と切磋琢磨しながら高みを目指す校風があります。努力をすれば必ず結果がついてきます。私も夢に向かって、努力し続けていきたいと思っています。

第36回 日本管打楽器コンクール テューバ部門 第1位

コンクール期間中は「笑顔」でいることを念頭において取り組みました。人と比べるのではなく、自身と向き合いピアニストと一緒にひとつのステージを作ろうと思っていたので、それが1位という形になって本当にうれしいです。大学での一番の思い出は4年生の時に定期演奏会と音楽大学オーケストラ・フェスティバルでマーラーの第5交響曲を演奏できたことでしょうか。若いうちにはなかなか演奏するチャンスのない曲です。友人や先輩後輩をはじめ、高校・大学といろいろな人とアンサンブルができたことも財産のひとつです。付属高校から大学卒業まで私が通った期間は現在も活躍しているすばらしい仲間が多く、本気でディスカッションしながら本番に向かった日々は今の私を構築した大切な時間でした。それらの経験が形となり、現在プロのオーケストラにも所属し、国内外の管弦楽団で客演させていただいています。どこまで行っても登りきることがないのが音楽のおもしろいところです。関わるすべてに真摯に向き合い、より高みを目指してこれからも挑戦し続けます。

東京音楽大学コンクール

学年・コースの枠を越えて、切磋琢磨し、高め合う。

本学主催の東京音楽大学コンクールは、学生の演奏意欲と表現技術の向上を目的として2002年より毎年開催されています。その大きな特徴は、学年やコースの枠を越えて審査が行われること、国際的に活躍している学外の演奏者・指導者の先生方に審査を依頼していることにあります。隔年で、「声楽部門・ピアノ部門」と「弦楽器部門・管打楽器部門」が開催されています。入賞者には賞状と賞金が授与され、今後の音楽活動に生かせるよう個別に詳細な講評も与えられます。これまでの本コンクール入賞者は、その後国内外の数多くの主要なコンクールにも入賞しています。



掲載しているのは一部です。ホームページをご覧ください。
※学年は受賞時の学年です。※副賞はひとつのみの掲載です。

2019年度 主なコンクール等入賞者

| コンクール名 | 受賞部門 | 受賞内容 | 氏名 | 専攻/学年/卒業年 |
|-------------------------------------|-----------------|---------------------|---------|--------------------------------|
| 第16回チャイコフスキー国際コンクール | ピアノ部門 | 第2位 | 藤田 真央 | ピアノ演奏家コース・エクセレンス 大学3年 |
| 第21回ホテルオークラ音楽賞 | | | 藤田 真央 | ピアノ演奏家コース・エクセレンス 大学3年 |
| 令和2年度(第31回)五島記念文化賞 | オペラ部門 | 新人賞 | 砂田 愛梨 | 声楽演奏家コース2013年大学卒業、2015年大学院修了 |
| 第25回KOBEL国際音楽コンクール | 打楽器 C部門 | 最優秀賞・神戸市長賞 | 尾崎 夏子 | 打楽器 大学1年 |
| 第24回びわ湖国際フルートコンクール | 一般部門 | 第1位・滋賀県知事賞ほか | 瀧本 実里 | フルート 2017年大学卒業、2019年科目等履修生修了 |
| 第24回びわ湖国際フルートコンクール | 一般部門 | 第2位・オーディエンス賞ほか | 園田 賀家 | フルート 大学4年 |
| 第13回カンペジョス国際ピアノコンクール(スペイン) | | 第1位 | 中川 真耶加 | ピアノ演奏家コース 2016年大学卒業、2018年大学院修了 |
| 第2回イザイ国際音楽コンクール(ベルギー) | ヴァイオリン部門 カテゴリーB | 第2位 | 福田 ひろみ | ヴァイオリン 2016年大学卒業、2018年大学院修了 |
| 第4回リュバ・ヴェリッチェ国際声楽コンクール(オーストリア) | | 第1位・リュバ・ヴェリッチェ・サロメ賞 | 鈴木 玲奈 | 声楽演奏家コース2011年大学卒業、2013年大学院修了 |
| 第4回ニーノ・ロータ国際指揮者コンクール(イタリア) | | 聴衆賞・ファイナリスト | 平林 遼 | 指揮 2011年大学卒業 |
| 第2回東京国際マリンバコンクール | | 第1位 | 後藤田 望寿輝 | 打楽器 大学3年 |
| 第88回日本音楽コンクール | フルート部門 | 第1位 | 瀧本 実里 | フルート 2017年大学卒業、2019年科目等履修生修了 |
| 第88回日本音楽コンクール | 作曲部門 | 第2位 | 高野 裕也 | 作曲 大学院2年 |
| 第88回日本音楽コンクール | 声楽部門(オペラ・アリア) | 第3位 | 吉田 一貴 | 声楽演奏家コース 2016年大学卒業、2018年大学院修了 |
| 第36回日本管打楽器コンクール | テューバ部門 | 第1位 | 若林 毅 | テューバ 2017年大学卒業 |
| 第17回東京音楽コンクール | 木管部門 | 第1位 | 瀧本 実里 | フルート 2017年大学卒業、2019年科目等履修生修了 |
| 第17回東京音楽コンクール | ピアノ部門 | 第3位 | 伊舟城 歩生 | ピアノ演奏家コース 大学4年 |
| 第1回イタリア国際指揮者コンクール | | 第3位 | 平林 遼 | 指揮 2011年大学卒業 |
| 第20回大阪国際音楽コンクール | 弦楽器部門・AgeU | 第1位 | 江刺 由梨 | ヴァイオリン 大学3年 |
| 第20回大阪国際音楽コンクール | 弦楽器部門 ハープ シニア | 第2位 | 景 晨陽 | ハープ 大学2年 |
| 第43回ピティナ・ピアノコンペティション | Pre特級 | 金賞 | 嘉屋 翔太 | ピアノ演奏家コース・エクセレンス 大学1年 |
| 日本トスティ歌曲コンクール2019 | | 第2位・聴衆賞 | 吉田 一貴 | 声楽演奏家コース 2016年大学卒業、2018年大学院修了 |
| 第21回日本演奏家コンクール | ピアノ部門 | 第1位・毎日新聞社賞 | 下岡 萌々子 | ピアノ演奏家コース 大学2年 |
| トロンボーン ピース・オブ・ザ・イヤヤー 2019 | | 作曲賞(優勝) | 高野 裕也 | 作曲 大学院2年 |
| 第21回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA | ソロ・アーティスト部門 | 銀賞 | 吉田 春音 | ピアノ演奏家コース 大学2年 |
| 第12回全日本吹奏楽連盟作曲コンクール | | 第1位 | 尾方 凜斗 | 作曲 大学院2年 |
| 第5回東京国際ピアノコンクール | 大学生部門 | 第1位 | 横 和馬 | ピアノ演奏家コース 大学3年 |
| 第23回松方ホール音楽賞 | 金管楽器部門 トロンボーン | 音楽賞 | 小池 未悠 | トロンボーン 大学4年 |
| 第37回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール | ピアノ部門 大学生の部 | 第1位 | 青木 駿太 | ピアノ 大学1年 |
| 第63回全東北ピアノコンクール | | 第1位・文部科学大臣賞 | 渡邊 灯人 | ピアノ演奏家コース 2019年大学卒業 |
| 第5回Kサクソフォンコンクール | 大学生 一般の部 | 第1位・総合第1位 | 齊藤 裕哉 | サクソフォン 大学3年 |
| 第38回飯塚新人音楽コンクール | ピアノの部 | 第1位・文部科学大臣賞ほか | 藤村 瑛亮 | 鍵盤楽器研究領域(ピアノ) 大学院1年 |
| SAKURA JAPAN MUSIC COMPETITION 2019 | ピアノ部門 大学生の部 | 最優秀賞 | 小笠原 和花 | ピアノ演奏家コース 大学1年 |
| 第10回ジュラ・キシュ国際ピアノコンクール | 大学生部門 | 第1位 | 藤村 瑛亮 | 鍵盤楽器研究領域(ピアノ) 大学院1年 |
| 第13回セシリア国際音楽コンクール | ピアノ部門 大学生専門の部 | 第2位(1位なし) | 古永家 健太 | ソルフェージュ研究領域 2019年大学院修了 |
| 奏楽堂日本歌曲コンクール第26回作曲部門 | | 第2位・畑中良輔賞 | 麻生 海音 | 作曲「芸術音楽コース」大学4年 |

在学生メッセージ

先生方の手厚いサポートを受けながら、常に最高の環境で学べる4年間。

大学生生活は、自分で履修するものを決めて時間割を組むなど、はじめてのことばかりでしたが、主体性とやる気があれば充実したものになると感じました。私は3年生になったら全日本学生音楽コンクール大学部門にチャレンジするという目標を立てていました。そのためには1・2年生のうちに多くの単位をとる計画を立て、1限授業のために必死になって朝早く起きました。2年生からは楽しみにしていた「舞台基礎演技法」の授業で、複数の声楽の先生方、指揮者やコレペイトールの先生、演出家の指導を毎週受けることができ、ますます歌に魅力を感じるようになりました。1年前倒しで2年生の時にコンクールに挑戦し、最年少優勝と聴衆賞をいただくことができました。これもご指導くださる先生方、真摯に音楽に向き合う友人や先輩後輩方、それから、やる気が湧いてくる大学のカリキュラムのおかげだと思っています。東京音楽大学のよいところは、先生方の手厚いサポートと常に最高の環境で学べること、また切磋琢磨する同級生、先輩後輩が皆やさしく親切で協力し合えるところだと思います。専門のみならず、社会に出て必要な多くのことを学べる4年間です。その中で将来の方向性もはっきりと見えてくるでしょう。



声楽演奏家コース4年 大高 レナ
(東京音楽大学付属高等学校卒業)

学生でいられる時間はすごく貴重。興味あることはなんでも挑戦したい。

中学1年の時にホルンではじめて合奏した時の感動が忘れられず、そのような経験をたくさん子どもたちにさせてあげたくて、音楽大学に行って教員になりたいと思いました。いろいろな大学の情報収集をして、東京音楽大学のホームページを見て、教職課程をはじめカリキュラムが大変充実していて、さらに自由で活発な校風が自分に一番合っていると感じました。オープンキャンパスや講習会に参加して、学校の雰囲気や自分で実際に確かめ、ホルンのレッスンだけではなく、「室内楽」や「吹奏楽」、「オーケストラ」の授業も何回か見学しました。先輩たちの演奏にただただ圧倒されました。この大学なら充実したキャンパスライフを送れると確信しました。学生でいられる時間はすごく貴重だと思っています。興味があることはなんでも挑戦したい。入学と同時に一人暮らしをはじめました。去年の夏にはお目当てのコンサートを巡る3泊4日の一人旅もしました。大学ではこれまでの3年間、レッスン、授業を目いっぱい履修してきました。テストを受けるのも大変ですが、全部「自分のため」と思っています。今年はオーケストラの指揮にも挑戦しました。東京音楽大学の先生はすごく丁寧に教えてくださるので、どの授業も履修してよかったととても満足しています。音楽大学を目指す皆さんは、それぞれ本当に好きなことを見つけて、それを一所懸命やりとおしてほしい。やっているうちに芽がきっと出てくると思います。人と違うものがひとつあれば生きていけるのではないのでしょうか。



ホルン4年 坂田 優咲
(筑波大学附属視覚特別支援学校卒業)



ピアノ演奏家コース4年 佐川 和冴
(東京音楽大学付属高等学校卒業)

有意義なキャンパスライフを送れることは間違いありません。

大学では実技のレッスンが最も重要です。レッスンを自分なりに消化し、さらに音楽的に深めていくことは容易ではありませんが、先生との対話は楽しく、気付けられることも多く、1回1回の貴重なレッスンを大切にしながら多くのことを吸収しています。また、海外から招聘された著名な演奏家、指導者からのレッスンを受けたり聴講する機会が多いのは大変に有益です。一方、練習は孤独な作業で悩みと葛藤の連続ですが、その合間に大学の食堂などで友だちと話をすることが一番好きです。室内楽と伴奏、時としてオーケストラと、他専攻の人と演奏できる場が豊富にあります。他専攻の友との交流は何よりも楽しいし、音楽的にも刺激を受けます。今はコンクールに挑戦し、マスタークラスに参加して、演奏する機会を増やしていきたいと思っています。また音楽を通じてさまざまな国、分野の人と関わる仕事をしたいです。最近、演奏はその人の考えとパーソナリティを反映するものだと強く感じるので、音楽だけでなくさまざまな分野の世界を理解できるよう努めていきたいと考えています。往々にして自分と他者を比べてしまうことがあります。それが苦しい時もあれば、活力になる場合もあります。皆さんも自分自身を信頼し、目標を見失わず、くじけずに強い芯をもち続けてほしいです。学生時代は人生のほんの一瞬ですが、音楽をとおして、東京音楽大学で有意義なキャンパスライフを送れることは間違いありません。

音楽の幅広いジャンルに、のびのびと挑戦することができます。しっかり支えてくれる先生、友だちがたくさんいます。

東京音楽大学では音楽の幅広いジャンルにのびのびと挑戦することができます。しっかり支えてくれる先生、友だちがたくさんいます。先生はレッスンで基礎から細かなところまで温かなご指導と、相談すればいつでも私に寄り添いアドバイスをくださいます。高校でのレッスンはどちらかといえば受け身でしたが、大学ではわからないことなどを先生に質問したりと、自然に積極的になっていきます。一方学内では、自分の楽器の仲間だけでなく、他の楽器の学生、他の専攻生とのさまざまな交流があります。学年や専攻が一緒になる座学はもちろん、アンサンブル授業や芸術祭などで学生間の大きな輪が広がります。他の楽器の知識、アンサンブル力、コミュニケーション力など多くのことを得る機会が多いのは、東京音楽大学だからできることです。また、演奏だけではなく演奏会の企画・運営を自主的に学ぶ機会も多く、スタッフの仕事を知ることできます。時には結果が出ないことも、将来に不安を覚えることもあります。しかし同じ悩みをもつ人は少なくないので、いろいろと意見をくれたり、ひとりではできなかったことも仲間がいるから乗り越えられます。このように、音楽の知識はもちろん、演奏会を支えるスタッフの想い、自分と向き合う時間、仲間との出会い…自分をレベルアップできる機会を数多く経験することができ、胸を張って卒業していくことができる大学です。色鮮やかなあつという間の4年間です。皆さんの今を変える、未来を変える、ここでしか得ることのできないすばらしい経験をぜひ体感してほしいと思います。



フルート4年 阿佐 彩夏
(香川県立坂出高等学校卒業)



ミュージック・リベラルアーツ3年 宮下 まゆき
(浜松学芸高等学校卒業)

それぞれの個性を伸ばしてくれる、自由に音楽ができる場なのです。

高校3年生の担任の先生にミュージック・リベラルアーツ専攻(以降MLA)を紹介してもらったのがきっかけで進学しました。私はアメリカに住んでいたため、英語を話す環境があったこと、同時にピアノに打ち込みたいので、英語と音楽を勉強することができるMLAは私に最適でした。東京音楽大学のいいところは、先生方のサポートが手厚いこと。一人ひとりに対し、先生方は真摯に向き合っていて、それぞれに合ったサポートをしてくれます。大学内外のコンクールやオーディションも、よい励みになります。1年の時に出場した東京音楽大学コンクールで1位をいただきましたが、これをとおして得た演奏の機会や人との出会いは、人生のかけがえのないものとなりました。また世界各地から著名な音楽家の来校が頻りにあり、講義やレッスンが多いというのもすごいところです。日本にいないが世界の第一線の音楽家から指導を受けることができます。MLAは少人数なので、皆仲がよく、向上心をもっているため、互いにいい刺激となります。音楽という枠にとどまらず、視野が広がりやすし、個性ある仲間との出会いもおもしろいです。TCMスタジオで何度かコンクールのデモ録音をしましたが、信じられないほど質の高い音源ができます。ここまで質の高い音源やビデオを無料で作れるというのは、そうそうないことだと思います。音大に入って、各自それぞれのやり方があっていいと思うし、人に合わせる必要なんてありません。そういう意味で東京音楽大学はそれぞれの個性を伸ばしてくれる、自由に音楽ができる場なのです。自分のやりたいことが何なのか常に模索し、全力で向かっていってほしいです。

有志の111(トリプルワン)オーケストラを結成。自由で明るい校風が背中を押してくれます。

3歳からヴァイオリンを弾いていて、指揮者になりたいと思ったのは小学校1年の時。広上淳一先生に憧れて「京都市ジュニアオーケストラ」に入団。はじめて広上先生の指揮で演奏した時に受けた衝撃が忘れられず、絶対この先生につきたい!と思いました。大学に入学してレッスンの一つひとつが充実していきつつ指導していただけます。「合同レッスン」をはじめオーケストラを指揮する機会にたくさん恵まれています。指揮の先生はもちろん、第一線で活躍する奏者の先生方にさまざまな角度からアドバイスをいただくことができます。東京音楽大学が創立111周年を迎えて、111(トリプルワン)オーケストラという有志のオーケストラを結成しました。仲間がいればもっと可能性が広がると思い、同期に呼びかけたところ、約90人の仲間が集まりました。プログラム作成から広報活動など、5、6人の運営チームが中心となって、やりたいことをみんなの投票で決めています。なにかアイデアが出るとあつという間に更新されたスケジュール表ができてくるんです。東京音楽大学は学生が主体的にやる、同じ志をもった仲間がたくさん集まってくる校風があって、大学側、先生方もそれを応援していただけます。積極的な仲間に恵まれたのは自分の学年が特別なのではなく、この大学の自由で明るい校風がみんなを行動的にさせてくれているからではないかと思っています。



指揮4年 岡本 陸
(洛星高等学校卒業)

キャリア支援



将来へ向けた支援。

音楽大学で学ぶ学生は、レッスンやアンサンブルなどをおして「独創性」「協調性」「主体性」が身についています。これらは企業が採用に際して強く学生に求める資質であり、本学の卒業生を採用した企業からも高く評価されています。また「就職対策講座」は、希望者を対象に開講されており、企業研究、面接対策など、就職に役立つ実践的な指導を行っています。

■ 就職支援プログラム

進路決定をする上でニーズの多い情報やアドバイスが、必要な場面で提供できるようにプログラムを準備しています。各種プログラムは主に3・4年生を対象としていますが、1・2年生で関心のある学生も参加できます。

■ 就職ガイダンス

就職活動をはじめにあたり、どのような流れで選考が行われるのか、そのためにはどんな準備が必要なのかを説明します。また、それらの対策に適したキャリア支援センターの活用方法や各種セミナーも紹介します。

■ インターンシップガイダンス

就職活動が早期化する傾向にあり、早いうちからインターンシップに関心がある学生も多くいます。インターンシップに参加する目的や心構え、注意点について説明します。インターンシップをはじめたい方であれば参加学年は問いません。

■ 業界研究セミナー/企業説明会

企業の人事担当者を本学内に招き、業界の特徴や、その企業を例とした業務内容、職種、選考についてお話を伺います。本学卒業生の採用実績がある企業を中心に、音楽関係にとどまらず幅広い業界の企業と接点をもつことができます。

■ 内定者報告会

就職活動を終えたばかりの先輩たちから、直接就職活動について話を聞くことができる機会です。実際にどのような面接だったか、選考で苦労したことや内定先を志望した理由などを聞くことができます。

■ 個別面談

進路は人それぞれであり、就職活動中はその時期によって悩みの内容も変わってきます。キャリアカウンセリングの資格をもったスタッフが対応し、どのように行動していけばよいか一緒に考えます。

■ 各種グループワーク

「学生時代に力を入れたこと」「自己PR」の作成ワークショップ、「グループディスカッション体験」など、少人数で意見を交換しながら進めていきます。他者に説明したり、言語化していく中で、無自覚だったことを意識化することができます。

■ 新社会人向け講座

もうすぐ新社会人となる方に向けた講座です。仕事に対する心構えや注意点、マナーについて学びます。

■ 卒業生の進路（2020年3月 学部卒業生）

■ 進学

東京音楽大学大学院(77名)
一橋大学大学院
上智大学大学院

■ 公務員

内閣府
海上自衛隊 音楽隊
神戸市消防局

■ 音楽教室講師

カワイ音楽教室(2名)
ヤマハ音楽教室(2名)
島村楽器(2名)
宮地楽器音楽教室

■ 教員 ※ P24 参照

■ 企業・団体など

【金融】

SMBC日興証券株式会社
第一生命保険株式会社
株式会社イオン銀行
都の都信用金庫
東京東信用金庫
さがみ信用金庫

【建設・不動産】

戸田建設株式会社

【商社・流通・小売】

藤田商事株式会社

【製造】

株式会社ワコール
クリナップ株式会社
トモエ乳業株式会社

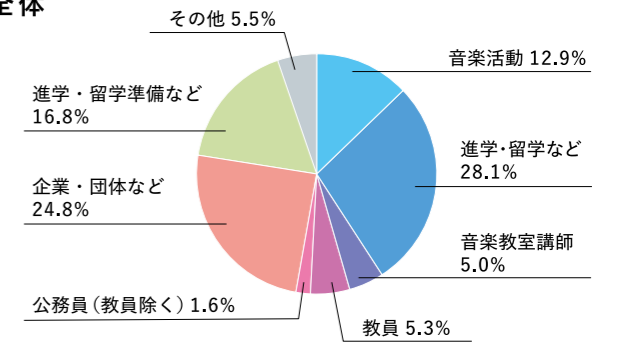
【運輸】

日本通運株式会社

【宿泊・飲食サービス】

株式会社星野リゾート・マネジメン
株式会社京王プレッソイン

■ 全体



■ 演奏団体（卒業生の主な進路実績）

札幌交響楽団
仙台フィルハーモニー管弦楽団
山形交響楽団
群馬交響楽団
NHK交響楽団
新日本フィルハーモニー交響楽団
東京交響楽団
東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団
東京都交響楽団
東京ニューシティ管弦楽団
東京フィルハーモニー交響楽団
日本フィルハーモニー交響楽団
読売日本交響楽団
神奈川フィルハーモニー管弦楽団
オーケストラ・アンサンブル金沢
セントラル愛知交響楽団
名古屋フィルハーモニー交響楽団

大阪交響楽団
大阪フィルハーモニー交響楽団
関西フィルハーモニー管弦楽団
日本センチュリー交響楽団
兵庫芸術文化センター管弦楽団
広島交響楽団
九州交響楽団
千葉交響楽団
東京ユニバーサル・フィルハーモニー管弦楽団
静岡交響楽団
中部フィルハーモニー交響楽団
東京佼成ウインドオーケストラ
東京吹奏楽団
自衛隊音楽隊
警察音楽隊
東京消防庁音楽隊
劇団四季

シカゴ交響楽団
クリーヴランド管弦楽団
ウィーン・トーンキュンストラ管弦楽団
南西ドイツ放送交響楽団
ノールショピング交響楽団
ブルノ国立フィルハーモニー管弦楽団
ドルトムント・フィルハーモニー管弦楽団
マインツ・フィルハーモニー管弦楽団
ハイデルベルク・フィルハーモニー交響楽団
ミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ交響楽団
リスボン・メトロポリタン管弦楽団
シンガポール交響楽団
台湾国家交響楽団
マリンスキー歌劇場管弦楽団
ベルギー王立歌劇場管弦楽団
レーゲンスブルク歌劇場管弦楽団

ほか

卒業生からのメッセージ



大学で学んだことすべてが就職にも、そして社会に出てからも役に立つ。

東京音楽大学の特徴は、幅広い実技・語学・教養が学べること。専門はピアノでしたが、打楽器・声楽・チェンバロを副科として個人レッスンを受けました。ミュージック・リベラルアーツ専攻では、ネイティブ1人に学生4人の英会話授業が週2回あり、さらに英語スキル科目によりコミュニケーション能力が鍛えられました。またドイツ語・フランス語・イタリア語・スペイン語も学びました。学科は西洋音楽史など音楽関連だけでなく、リベラルアーツ科目として「西洋史」「異文化間のコミュニケーション」「宇宙と生命」など、また単位互換制度を利用し、上智大学の授業も履修しました。就職にあたり、指導の先生から、いろいろとアドバイスや励ましを受けました。大学で学んだ語学力、コミュニケーション能力、音楽や楽器の知識をもとに、さまざまなお客さまとの対話とおし、音楽の感動やよろこびを伝えていきたいと思っています。

株式会社ヤマハミュージッククリエイト 張 瑀 芯 ミュージック・リベラルアーツ(2年次に専攻) 2020年大学卒業

演奏家、教育者、企業人として 多くの卒業生が活躍しています。

初心を忘れず、その先の世界を追い求めていく。

いつか私の演奏で音楽のもたらす力を感じてほしい—そんな願いを胸に、音楽の道を志しました。演奏には奏者の心が顕著に表れるため、経験を積み、教養を深め自分を磨く。そして心が元気であることが大切です。入学当初から今も変わらず、親身に指導して下さるすばらしい先生方と巡り会えたことは、かけがえのない財産となっています。在学中には、各領域の先生方から厚い指導を受けたほか、学内外の多くの演奏会では、楽しみや難しさをその度に学びました。また、短期留学の経験は海外で挑戦する第一歩となりました。こうして培った一つひとつが、今の私の音楽活動の基盤になっています。音楽の道のりは険しく時に苦しいこともあります。何にも代えがたいすばらしいよこびを与えてくれます。これからも初心を忘れず、その先の世界を追い求めていきたいと思ひます。

オペラ歌手 **鈴木 玲奈**

声楽演奏家コース 2011年大学卒業 2013年大学院修了



© Ayako Yamamoto

常に自分の挑戦を応援し、見守ってくださった先生方。

現在コンサートピアニストとして国内外で公演を行っており、その視点から、日々音楽業界や国境を越えた、グローバルな活動を目指しています。大学時代は音楽家として、人間として最も多くの刺激を得ることができた4年間でした。現代社会では、音楽のような専門的な道に進んだとしても社会的知識は欠かせません。そのため、一般科目も含め、できるだけ多くの科目を選択し、授業を聴講するよう心がけていました。プロフェッショナルの音楽家を目指す人ならば、壁にぶつかるとも少なくないと思ひます。そんな時、後ろを振り返らず、前に進み続けることがなにより大切だと感じています。大学でお世話になった先生方はそんな自分の挑戦を常に応援し、どんな時でも見守ってくださいました。皆さんも日々自分と向き合い、多くのことを学び、挑戦し、たくさんの発見をしてください。

ピアニスト **金子 三勇士**

ピアノ演奏家コース・エクセレンス 2012年大学卒業 2014年大学院修了

具体的な目標をもち、積極的に海外を知る。

海外のオーケストラでは、自分の音楽に対する考えを躊躇なく積極的に主張することが求められます。私が在籍しているシカゴ交響楽団では、演奏者一人ひとりの個性を激しくぶつけ合いながら演奏を形作っていきます。現在の指揮者リッカルド・ムーティ氏も、「言われるまま、言われるのを待っているような演奏家には魅力を感じられない」「常に何か表現してほしい」と日頃から言っています。音楽家を目指す方には、自分が「どんな音楽家になりたいのか」「なぜ音楽家になりたいのか」、じっくり考えてほしいです。そして学生の頃から、チャンスを逃さず積極的に海外に行き、たくさんの人に会っていろいろな文化に触れてほしい。英語ができなくても躊躇せず臨めば、必ずなんとかなるものです。挑戦と失敗を繰り返しながら、自分のやり方を見つけることがとても大事だと思ひます。

シカゴ交響楽団 ヴァイオリン奏者 **舟越 末**

ヴァイオリン 1994年大学卒業



人間として成長できるような、大学生活を。

私は、オーケストラは室内楽の延長線上にあると思ひます。オーケストラの楽員としてどのようにアンサンブルをするべきか、どのような音を出すべきかを東京音楽大学の室内楽の授業で、その基礎をみっちり学ぶことができました。オーケストラは指揮者だけを見て演奏すればよいのではなく、他の人の音を聴き、その様子を見ながら演奏しなければなりません。そうした時に、室内楽の授業で学んだことが生きているのが実感できます。また、授業や演奏会などを通じてさまざまな人と出会い、ともに活動し、多岐にわたった経験を重ねるとはとても大切なことで、音楽以外の経験が演奏に生きることが多々あるのです。これから入学する皆さんには、音楽一辺倒にならず、たくさんを経験、勉強し、人間として成長できるような大学生活を送ってほしいと願っています。

NHK交響楽団 ホルン奏者 **木川 博史**

ホルン 2007年大学卒業

人間力を鍛えるレッスンで今の指揮者としての自分がある。

東京音楽大学での4年間がなければ、今の私はありませんでした。指揮のレッスンは、音楽のことはもちろんですが、自分のことを理解し、社会の中でどうやって生きていくか、いわば人間力を鍛えるレッスンだったように思ひます。オーケストラというのは、社会の縮図のようなものだと思ひます。いろんな考えをもって当然。中には真逆な考えをもっている人もいます。自分と考えが違うからおもしろくないと思うのか、自分と考えが違うからこそもっと知りたいと思ひるのは、大きな違いです。東京音楽大学で日々レッスンに打ち込んだからこそ、考えの違う人たちのことに興味をもてる人間になりました。そうでなければ、指揮者という職業は務まらないと思ひますし、だからこそ今の私があるのかもしれない。

神奈川フィルハーモニー管弦楽団 常任指揮者
名古屋フィルハーモニー交響楽団 正指揮者
オーケストラ・アンサンブル金沢 パーマネント・ゲストコンダクター

川瀬 賢太郎

指揮 2007年大学卒業



© Yoshinori Kurosawa



音楽から学んだことは、その後の人生でも生きる。

大学卒業後は、京都大学大学院法学研究科で法律を学び、福岡の鴻和法律事務所として働いています。東京音楽大学では、著名な演奏家や指導者の公開レッスンなど、本物の音楽を学ぶ機会が溢れていて、とても刺激的な授業の連続でした。音楽と真摯に向き合うことは決して容易なことではないのですが、日々努力を積み重ねることにより、自然と「忍耐力」が身についたように感じます。また、常に一度しかない演奏の中でベストを尽くすことにより、「集中力」が磨かれたと思ひます。音楽も法律も分野は違いますが、どちらもプロフェッショナルな領域です。東京音楽大学というプロフェッショナルな環境で学んだことは大きな自信となっていますし、そこで培われた「忍耐力」と「集中力」は、弁護士としてさまざまな難しい案件に取り組む上で強みになっていると思ひます。

弁護士 **塩崎 智子**

ピアノ演奏家コース 2009年大学卒業

音楽を学ぶ中で身につけた、追求力と忍耐力。

読売新聞の記者として、宇都宮支局で主に事件、事故、スポーツを担当しています。東京音楽大学で過ごした4年間は毎日が刺激的でした。著名な先生方のレッスンでは、音楽を追究する楽しさと難しさを感じながら日々の練習で鍛えた忍耐力や一音一音に対する集中力、そして追求心が養えたと思ひます。また、大学3・4年次に履修した合唱はピアノを専攻していた私にとって、大人数でひとつの音に集中し音楽を創るはじめての経験で、プロオケと共演する本番での感動は忘れられないものになりました。専攻のほかにも幅広く一流の音楽に触れることができることも東京音楽大学の魅力だと感じます。現在の仕事は音楽と直結しませんが、大学4年間、音楽を学ぶ中で身につけた少々の失敗ではへこたれず、前進し続ける追求力や忍耐力は私の強みになっています。

読売新聞東京本社 記者 **三枝 未来**

ピアノ演奏家コース 2019年大学卒業



大学4年間の経験が、教員としての基盤に。

音楽の専門的な知識・技能を身につけた教員になりたかったので、教育大学ではなく東京音楽大学の音楽教育専攻に進みました。大学での声楽やピアノの個人レッスンはもちろん「教職課程管弦楽・吹奏楽」や「伴奏法」「指揮法」は、現在、小学生を指導する時に直接役立っています。また直結していないような授業も、音楽の本質に触れることができ、教員としての基盤にもなっています。東京音楽大学は、音楽教育について専門的かつ実践的に学ぶことができる場所です。また、教員を目指す学生が望めば、授業以外にも多くの時間をかけて指導して下さる先生方の熱意と愛情を実感できる場所でもあります。学生の皆さんには、この理想的な環境で学び、音楽をとおして生徒を人間的に成長させられるような「プロフェッショナルな音楽の指導者」を目指してほしいと願っています。

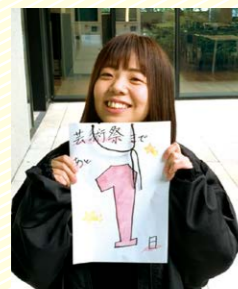
杉並区立和田小学校 教諭 **武井 紗弥香**

音楽教育専攻 2002年大学卒業



芸術祭

キャンパスライフのハイライトのひとつと言える芸術祭。音楽大学ならではの芸術性・創造性が自由に表現される場であり、学生主体で企画・運営される活気あふれる行事です。開催は2020年には57回を数えます。学生それぞれが心に抱く音楽への思いから、独自性に富んださまざまなプログラムが毎年企画されています。オペラをはじめオーケストラ、吹奏楽から小編成のアンサンブルまで、ジャンルもクラシックのみならず、ゲーム音楽、ジャズやミュージカル、ガムランなど多彩です。また恒例の模擬店も楽しみです。一切の運営を取り仕切るのは、1~3年生の学生約100名で組織される芸術祭実行委員会。スムーズな開催のために1年間かけて学内外関係者など多くの人と関わりながら一大イベントを作り上げる経験は、よき思い出となるばかりでなく、実社会で必要となる能力も身につきます。



第56回芸術祭実行委員長
菅野 桃香 フルート4年
(福島県立磐城桜が丘高等学校卒業)

改めてこの大学に入学して本当に良かったと実感。

1年生から3年連続で芸術祭実行委員をやりました。毎年終わった後は、委員のみんなが「芸術祭ロス」状態になります。特に3年生。実行委員になれるのは3年生までなのです。頭ではわかっていましたが、いざ終わってみると、SNSでみんなの写真を戻してばかりの自分たちがいます。表面上は「たいへんさ」しか見えませんが、「たいへんさ」ゆえの達成感や満足感、人との絆の深まり、すべての苦勞が報われて余りある経験でした。芸術祭実行委員はコンサート、イベント、SR、模擬店、造形、渉外、編集、会計…、たくさんの部署で運営します。みんなで力を合わせて何かを成し遂げる経験はかけがえのないものです。音大に入学した皆さんは自分のしたいことが叶い、すでに幸せなはず。しかしもうひとつ殻をはずして仲間と何かを作り上げ、人とつながる温かみを感じれば「この大学に入って本当に良かった」と改めて実感すると思います。



宇梶 桃子

クラリネット 2020年大学卒業
(茨城県立水戸第三高等学校卒業)

新キャンパスでの芸術祭は、すばらしい2日間でした。

3年生まで芸術祭実行委員として参加していました。学生最後の芸術祭で、同期や後輩と一緒に演奏する思い出を作りたいと思い、「芸祭プラス〜邦人作曲家の系譜〜」に参加し、コンサートミストレスを務めました。普段の授業と異なり、さまざまな学年の学生で構成されたメンバーだったので、見慣れない顔が多く、はじめは少し不安がありました。指揮と作曲を担当された先生方は、学生には丁寧に、音楽に対してはとて真摯に指導してくださいました。その甲斐あり、来場のお客さまに満足いただけましたので、とてもうれしく思いました。新キャンパスでの芸術祭は、参加者のさまざまな工夫や思いの詰まったすばらしい2日間でした。



社会・地域との連携

東京音楽大学は、音楽をとおして、社会・地域の活性化、文化力向上に貢献することをビジョンのひとつに掲げ、多種多様な活動を行っています。



癒しの森コンサート
(長野県信濃町)



東京共済病院でのコンサート
(目黒区)



区民ひろば回遊音楽キャラバン
(豊島区)



みないけコンサート
(豊島区)



北本市文化センター
ロビーコンサート(埼玉県)



庁舎ランチタイムコンサート
with東京音楽大学(豊島区)



フェットドラミュージック2019
(渋谷区代官山)



中目黒商店街連合会主催
「なかめオータムフェスタ」



すがもベテランクラブ
コンサート

文化庁 大学における文化芸術推進事業

「2019年度 文化庁 大学における文化芸術推進事業」に採択され、本学付属民族音楽研究所を推進母体とし「日本とアジアの伝統音楽・芸能のためのアートマネジメント人材育成」事業を実施しました。一般公募で受講生を募り、「クロスオーバーによる活用」を主たるテーマに日本とアジアの伝統的な音楽・芸能の公演について、総合的に企画・運営できるアートマネジメントの人材育成を図ります。継続して2020年度、2021年度も実施する予定です。

東急文化村と連携

本学は東急文化村と文化振興に関する包括的協定を締結しました。2018年度は、Bunkamuraのロビーで本学付属民族音楽研究所所蔵の民族楽器を展示し、ミニコンサートを開催。2019年度は「SHIBUYA ルネッサンス」にジャワ・ガムランで出演。また文化庁「アートマネジメント人材育成」事業の公演制作見学研修では、Bunkamuraが「渋谷能」の公演制作に関する講座を担当するなど、産学連携が進められています。

クラーク記念国際高等学校と連携

2019年度よりクラーク記念国際高等学校 東京キャンパス「パフォーマンスコース」の2年生を、声楽専攻1年次の「ヴォイストレーニング」授業の科目等履修生として受け入れました。高校生の活発な発言が飛び交う高大連携の学びの場となっています。

「東アジア文化都市2019豊島」への支援

2019年の開催都市に選定された豊島区は、日本・中国・韓国の文化に関連するさまざまなイベントを実施。本学は「東アジアとクラシック音楽」、付属民族音楽研究所は「楽器がつむぐ東アジア」「世界の弦楽器を弾いてみよう」の演奏会、ワークショップを開催しました。

東京音楽大学・目黒区教育委員会連携講座「インドネシア・ジャワの宮廷音楽ガムランを演奏しよう」

目黒区教育委員会と本学が主催した生涯学習講座。区民をはじめ幅広い層が参加し、ガムランの歴史や楽器について学んだあと、実際に楽器に触れて演奏する参加者全員で合奏を楽しんでいただく講座です。

掲載しているのは一部です。ホームページをご覧ください。



東京音楽大学は、あなたの努力を応援します。

奨学金

東京音楽大学奨学金(返済義務なし)

本学では各種奨学金制度を用意しています。
2020年度は、特別特待奨学生2名、給費奨学生33名、短期留学奨学生13名にそれぞれ支給されました。

- | | | |
|---|---|---------------------------------------|
| <p>① 特別特待奨学生 全学費または理事会の決定による額を免除</p> | <p>② 給費奨学金 年額100万円～30万円</p> | <p>③ 入学奨学金 入学金に相当する額を奨学金として給付</p> |
| <p>④ 家計急変者奨学金 授業料の全額もしくは一部を給付</p> | <p>⑤ 短期留学奨学金 航空運賃・宿泊費・学費の半額補助</p> | |
| <p>⑥ 大規模自然災害罹災学生授業料減免 被災状況により、授業料の全額または一部免除</p> | <p>⑦ 同一生計の複数就学者授業料減免 授業料の20%を減免</p> | |

その他の奨学金など

青山音楽財団、瀬木博尚記念芸術文化振興会、戸田育英財団、福島育英会、明治安田クオリティオブライフ文化財団、山田貞夫音楽財団、よんでん文化振興財団などの民間財団が事業主体の奨学金があります。また、人物・成績が優れ、経済的理由により就学が困難な学生に対しては、日本学生支援機構、地方公共団体・民間育英事業団体(貸与)、東京音楽大学後援会学費提携ローンなどの奨学事業を紹介しています。詳細は学生支援課までお問い合わせください。

短期留学奨学生からのメッセージ



田中 英純

ピアノ演奏家コース 2020年卒業
(北海道札幌北高等学校卒業)

自分の世界を広げるきっかけに。

ポーランド国立ショパン音楽大学では1カ月という短期間でしたがとても充実したカリキュラムで、ピアノの個人レッスン以外にも、室内楽のレッスンや即興、楽曲分析などの授業、寮生活に至るまで本格的な留学生生活を体験することができました。

特に生家などのショパンゆかりの地を巡ったり、旧市街などでポーランドの歴史や文化を肌で感じる日々のなか、ショパンの曲を教授にレッスンしていただいたのは至福の時間でした。ショパンの命日には彼の心臓が埋葬されている聖十字架教会でレクイエムコンサートを聴き、今なお多くの人々から愛されていることを感じました。また室内楽では現地の学生と英語でコミュニケーションを取りながら合わせやレッスンを重ね、公開試験に向けてデュオとトリオの曲を仕上げる貴重な経験ができました。そのほかにも現地の学生から多くの刺激を受け、帰国するのが寂しくなるほど素敵な出会いがたくさんありました。

今後は視野を広くもち、海外での音楽活動により積極的に挑戦していきたいです。師事したい先生とも出会うことができ、大学卒業後はショパン音楽大学への進学を志望し、無事に入学が決まりました。

早期卒業制度

東京音楽大学は入学後3年間で卒業できる早期卒業制度を導入しています。器楽専攻の学生を対象として学部で3年以上在籍し、専攻実技が極めて優秀であり、本学が定める単位を優秀な成績をもって修得したと認められた場合、3年間の在籍で卒業ができます。2019年度には3名の学生がこの制度を利用して早期卒業しました。

卒業生からのメッセージ



目標や夢を叶えるため、早期卒業制度を活用。

入学当初から早期卒業を視野に入れていました。一番の理由は、卒業後に留学をして広い世界で勉強したいと思っていたからです。3年次では授業への出席を最優先にするため、担当の先生のご指導によりコンクールへの出場を控えたり、本番と授業の日程が重ならないように調整しました。大学入学後はやりたいことがたくさん増えて、いつのまにか1年が終わるような3年間でした。4年分の必要な単位を3年間で取得したため、学校にいる時間は長かったように思います。学業と演奏活動を両立させ、飛び級入学とともに3年で早期卒業をすることができました。唯一無二を目指す覚悟を常にもちながら精進してまいります。

太田 糸音 ピアノ演奏家コース・エクセレンス 2020年早期卒業(東京音楽大学付属高等学校卒業)

学生寮

池袋キャンパス内に学生寮を新たに建設

東京音楽大学は、一人暮らしをする学生の福利厚生充実、練習環境の向上を目的として、池袋キャンパス内に、現在の目白台学生寮(女子)に代わる新たな学生寮(女子)を建設(2021年度中完成予定)することを決定しました。詳細はホームページにて随時発表します。



東京音楽大学提携寮

学生寮の管理業者と提携し、各キャンパスに通学しやすいさまざまなタイプの学生会館を紹介します。

学生相談室

学生相談室では、学生生活がより充実したものになるようにさまざまなサポートをしています。

- **カウンセリング**
臨床心理士との面談をとおして、困りごとの解決の糸口を見つけていきます。
- **外部支援機関の紹介**
クリニック以外の相談機関や支援機関の紹介も行っています。
- **精神科・心療内科クリニックの紹介**
学校周辺のクリニック、近隣のクリニック、特定の症状に強い病院など、必要と希望に合わせて紹介します。
- **図書貸し出し**
学生の困りごとに役立つ図書をそろえています。図書の貸し出しだけの相談室利用もできます。

後援会

保護者の方々を会員とした組織で、学生が充実した学生生活を送れるようにさまざまな活動を行っています。

- 学生主催、学生出演の演奏会への支援
- 音楽コンクール参加者への支援
- キャリアアップを志向した各種資格取得への支援
- 国内外演奏会への助成
- 防災用品の充実
- カウンセラーの配置
- インフルエンザ予防接種などへの助成

校友会

東洋音楽学校(普通科含む)、東洋音楽短期大学、東京音楽大学卒業および大学院、研究生を修了した後における会員相互の啓発、新睦を図るとともに、東京音楽大学の発展のために寄与することを目的としています。全国の都道府県に支部を置き、校友会主催の演奏会を開催しています。

学費

- 声楽専攻
- 器楽専攻
- 作曲指揮専攻(芸術音楽コース、指揮)
- 音楽文化教育専攻
- ミュージック・リベラルアーツ専攻
- 吹奏楽アカデミー専攻

| | 入学金(※1) | 授業料 | 施設拡充費 | 施設維持費(※2) | 合計 |
|-----|---------|---------|---------|-----------|-----------|
| 春学期 | 300,000 | 743,500 | 390,000 | 135,000 | 1,568,500 |
| 秋学期 | — | 743,500 | — | — | 743,500 |

単位:円

- 作曲指揮専攻
(ミュージック・メディアコース)

| | 入学金(※1) | 授業料 | 施設拡充費 | 施設維持費(※2) | 合計 |
|-----|---------|---------|---------|-----------|-----------|
| 春学期 | 300,000 | 788,500 | 390,000 | 135,000 | 1,613,500 |
| 秋学期 | — | 788,500 | — | — | 788,500 |

単位:円

※1 付属高等学校からの1年次進学者 150,000円 ※2 2年次より 145,000円
※学費以外に後援会費(毎年)、入学金(入学時)が必要です。

大学院音楽研究科 Graduate School

修士課程

音楽に関する深い学識と技能を修得することによって、プロフェッショナルな音楽活動を行うための高度な創造性、表現力、研究能力を養います。学部にある専門分野に加えて、室内楽、伴奏、音楽学、ソルフェージュも専門分野として学ぶことができます。また、社会人および外国人留学生特別選抜制度も設けており、海外の優れた学生たちも日々研鑽を積んでいます。

大学院音楽研究科修士課程「音楽教育専攻」の「音楽文化研究専攻」への名称変更ならびに「多文化音楽研究領域」の新設について

本学大学院音楽研究科修士課程音楽教育専攻は、2020年4月1日に「音楽文化研究専攻」と名称変更するとともに、同専攻に「多文化音楽研究領域」を新設しました。音楽文化研究専攻は、本専攻が今まで進めてきた学際的な教育研究活動の成果に加え、新たに多文化音楽研究領域を設置することにより、多様性と国際性を重視した音楽文化に関する学術研究、教育を推進します。

学位 修士（音楽） ■ 入学定員 70名
 ■ 資格 中学校教諭一種、高等学校教諭一種免許状（音楽）を有する者が、所定の単位を取得して本大学院修士課程を修了した場合は、中学校教諭専修免許状（音楽）、および高等学校教諭専修免許状（音楽）を取得できます。

器楽専攻 ■ 鍵盤楽器研究領域 ■ 管打楽器研究領域 ■ 弦楽器研究領域 ■ 室内楽研究領域

声楽専攻 ■ 独唱研究領域 ■ オペラ研究領域

作曲指揮専攻 ■ 作曲研究領域 ■ 指揮研究領域

音楽文化研究専攻 ■ 音楽教育研究領域 ■ ソルフェージュ研究領域 ■ 音楽学研究領域 ■ 多文化音楽研究領域
（2020年度名称変更） ※ 2020年度新設

※ 多文化音楽研究領域 「多文化音楽研究領域」は、多様な文化や民族性を背景として発達してきた音楽を探求し、日本を含む世界各地の伝統音楽の継承と発展に貢献する研究領域です。伝統音楽の理論ならびに実践をバランスよく学び、新しい音楽文化の創造を目指します。

博士後期課程

本学の博士後期課程は、専門領域が優秀なだけでなく、それを社会で活用できる人材を育てることを目的に2014年4月に設置しました。音楽専攻というひとつの専攻のもとに、異なる専門分野の学生、教員が共同して研究を行うカリキュラムが組まれており、「音楽の各分野における高度な専門性」に加えて「総合的な知見」「社会的・実践的能力」を備えた人材を育成します。また、自ら仕事を創ったり、他分野の人々と活発に協働できるプロフェッショナルな音楽家、音楽教育者、音楽研究者を育成します。2020年3月までに、11名の博士号取得者を輩出しました。博士論文は本学リポジトリで公表しています。

音楽専攻 ■ 学位 ・博士（音楽） ・博士（音楽教育学） ・博士（音楽学）
 ■ 入学定員 3名（社会人および外国人留学生を含む）



創造・発信の拠点 中目黒・代官山キャンパス

都内2つのキャンパスで 充実した学びの杜

生涯にわたる教育・研究の拠点 池袋キャンパス

中目黒・代官山キャンパス (2019年4月開校)

中目黒駅と代官山駅からそれぞれ徒歩約5分という立地のよさに加え、都心でありながら豊かな緑の中で芸術性・創造性を育む環境です。最先端の音響設備を備えたTCMスタジオは、全専攻の学生が利用可能です。TCMホールは、最適な響きの中で演奏・鑑賞ができ、地域の方々にも来ていただける演奏会が年間多数開催されています。80室以上あるレッスン室、大・中・小教室、クリエイティブラボなど、優れた環境で集中ができ、学生たちの学修意欲・創作意欲、また研究意欲を大いに刺激します。本学最新の取り組みを社会に発信する拠点です。

池袋キャンパス

池袋駅から徒歩約15分、地下鉄副都心線雑司が谷駅から徒歩約5分、都心であるにもかかわらず寺社が散在し、ノスタルジーを感じる街並みに立地しています。806席ある100周年記念ホールを擁する100周年記念本館では、明るく開放的な空間の中で練習に没頭できます。また、2020年度より、付属高等学校を池袋キャンパスに移転することにより、敷地内に、付属幼稚園から付属高等学校、大学院まで一貫教育の環境が整えられました。加えて、付属図書館や付属民族音楽研究所も併設し、生涯にわたる教育・研究の拠点となります。2021年度中に新学生寮の建設も予定されています。

付属図書館

楽譜や音楽書はもちろん、CDや映像資料、電子書籍、戦前の貴重な音楽雑誌など幅広い資料のほか、明清楽(伊福部昭コレクション)・シャンソン(相良匡俊コレクション)関連資料や、バッハの神学文庫(丸山桂介コレクション)などを所蔵しています。また、音楽研究に欠かせない各種学術情報データベースも提供しています。

蔵書数 (2019年12月31日現在)

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|---------|----|---------|------|------|----|---------|------|----|---------|----|--------|----|-----|---------|-----|---------|----|----------|----|-----------|
| 書籍 | 和書 | 41,883冊 | 洋書 | 25,378冊 | 電子書籍 | 497冊 | 楽譜 | 68,472冊 | AV資料 | 録音 | 43,277点 | 映像 | 4,114点 | 雑誌 | 和雑誌 | 663タイトル | 洋雑誌 | 447タイトル | 合計 | 183,621点 | 合計 | 1,110タイトル |
|----|----|---------|----|---------|------|------|----|---------|------|----|---------|----|--------|----|-----|---------|-----|---------|----|----------|----|-----------|

付属民族音楽研究所

元学長の作曲家、伊福部昭により1975年に創設され、以来、日本の私立音楽大学では唯一の民族音楽研究所として、ユニークな研究と社会貢献活動を続けてきました。その対象はアイヌの音楽、インドネシアのガムラン音楽や沖縄の音楽、明清楽ほか世界各地の民族音楽へと広がっています。演奏、作曲、教育、音楽学の専門家たちの協働により、学部や大学院における邦楽を含むアジア地域の音楽の理論と実技、社会人教育、公開講座の実施、研究紀要の出版、フィールドワーク支援、研究プロジェクトの推進など、世界のさまざまな音楽の研究ならびに教育支援にあたっています。



生涯をとおした音楽の一貫教育

東京音楽大学には、大学、大学院(修士課程、博士後期課程)のほかに、付属高等学校、付属幼稚園、付属音楽教室に加えて、付属民族音楽研究所、付属図書館も設置され、それぞれの特色を生かした教育・研究システムと最新の設備環境が用意されています。社会人を対象としたコースも豊富で、生涯をとおした音楽の一貫教育が展開されています。

付属高等学校

1932年に創立。レッスンは、大学の教授陣によって行われ、一人ひとりの実力、能力に見合った指導により、生徒の技術力、表現力、感性が磨かれ、音楽の総合力が高められていきます。その成果として近年国内外の多くのコンクールなどにおいても著しい成果を挙げており、多くの卒業生が演奏家として活躍しています。2020年度より高等学校は池袋キャンパスに移転しました。これを機に高大一貫教育をさらに進化させ、特色ある高大連携カリキュラムの構築が実現します。



付属幼稚園

1950年に開園。音楽を通じて心豊かな情操教育を行い、開園以来約4,000人の卒園児が巣立っています。音楽を取り入れたきめ細かい保育を行うとともに、音楽大学の付属機関である特色を最大限に生かした音楽教育を行っています。また、早期から英語教育を取り入れ、「聞く」「話す」ことが楽しく自然に身につく指導をしています。保育活動、演奏会、実技個人レッスンなどで学んださまざまな力は、豊かな人間性を育てる礎となるでしょう。



付属音楽教室

1974年に創設以来、若い優れた音楽家たちを育ててきました。指導陣は、東京音楽大学や付属高等学校に所属する経験豊かな教員で構成されています。4歳以上の児童を対象として、レッスンは徹底したマンツーマン・システムで行われ、一人ひとりの適性に合った、もっとも効果的で柔軟な指導です。また、ソルフェージュによる音感教育や、音楽の理論や仕組みに関する教育を併せて実施し、音大付属ならではの総合的な音楽指導を行っています。



池袋キャンパス

A 100周年記念ホール

806席あるシューボックス型の音楽ホールで、年間多くの演奏会を開催しています。

B ガレリア

トップライトから自然光が降り注ぐ吹き抜けのガレリアを中心に、周辺にガラスを効果的に用いた練習室を配置した開放的な空間。

C 教室 (ミニホールA200教室)

高度な音響性能を要求される教室が多数配置されています。ミニホール(202席)は教室として講義や公開レッスン、試演会などにも使用されます。

D 練習室

二重遮音構造で、思いきり音を出しても校舎内外への影響を極小に抑えられています。個室の練習室以外にも、打楽器や楽器のアンサンブル専用の広い練習室が多数あります。

E J館

2020年度より付属高等学校が池袋キャンパスに移転することに伴い、特色ある高大一貫教育を推進しています。

F J館地下 レコーディングルーム

レコーディングスタジオです。施設の拡充が行われ、さらに充実した学びの環境が整えられています。

G B館スタジオ

パイプオルガンを配置したスタジオ。オルガンレッスンのほか、オーケストラや吹奏楽などの授業が行われています。

学生寮(女子寮)

(2021年度中に完成予定)

一人暮らしをする学生の福利厚生の充実を目的として、池袋キャンパス内に学生寮を建設します。



中目黒・代官山 キャンパス

A TCMホール

音が回遊し包まれるように設計されています。ソロ、デュオはもちろん、室内オーケストラも最適な響きで演奏、鑑賞することができます。

B レッスン室

80室以上あるレッスン室は、木のぬくもりを感じる最適な音響を備えています。音の反射、拡散、吸音のバランスを考慮した穴あき特殊壁。

C 練習室

レッスン室同様に最適な音響を備えています。2キャンパス合わせていつでも練習できる部屋数を有し、練習に集中できます。

D TCMスタジオ

全専攻の学生が利用できるレコーディングスタジオです。最先端の録音機材を採用し、コンクールのデモテープの収録も可能。

E 教室

特大・大・中・小19室あるさまざまなタイプの教室。特大教室は、音楽ホールに近い響きをもち、TCMスタジオと連動して録音が可能。

F 学生レストラン・ クリエイティブラボ

学生レストランにクリエイティブラボが隣接。ここでは、新しい学びを得るための空間。学内イベントや教育プログラムとの連携、コミュニケーションの場でもあります。

G 学生と街のカフェ

DEAN & DELUCAの大学への初の出店。学生は10%オフ料金で利用でき、朝食サービスなどTCM店限定メニューも用意しています。学外の方も利用可能で、地域コミュニティを育む場でもあります。



TOM

東京音楽大学

中目黒・代官山キャンパス(学校法人本部)

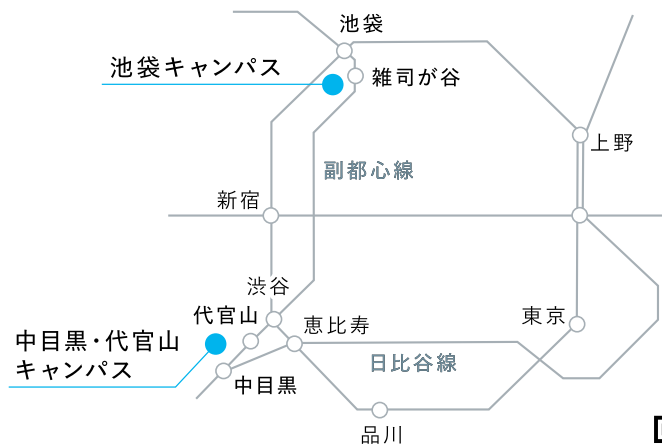
〒153-8622 東京都目黒区上目黒1-9-1
TEL.03-6455-2700 FAX.03-6455-2770

J R / 「恵比寿駅」より徒歩約14分
私 鉄 / 東急東横線「中目黒駅」・「代官山駅」より徒歩約5分
地下鉄 / 日比谷線「中目黒駅」より徒歩約5分

池袋キャンパス

〒171-8540 東京都豊島区南池袋3-4-5
TEL.03-3982-3186 FAX.03-3982-3183

J R / 「池袋駅」東口または「目白駅」より徒歩約15分
私 鉄 / 西武池袋線・東武東上線「池袋駅」より徒歩約15分
地下鉄 / 丸ノ内線・有楽町線「池袋駅」より徒歩約15分
副都心線「雑司が谷駅」より徒歩約5分
都 電 / 荒川線「鬼子母神前停留場」より徒歩約3分
都バス / 「東京音楽大学前」より徒歩約3分



<https://www.tokyo-ondai.ac.jp>

